

燧袋圖考序

燧袋は事旧記に
見えきなり古事紀
日本紀は始に
あり多に史に
師見えたりと
世代に傳はり
名にえりし
事なり
よきなり
古にえりし
あり人
小なり
なり
画に
かゝる

レト編輯ストイヘトモ
予因ヨリ冥識圖書ニ
モ乏レケレハ踈脱多カル
ヘシヨツテ弁明シタル
図式ハ追テ後ノ卷ニ
嗣編ホイタスナリ



燈袋圖考

引書目錄



日本書紀
古事紀
倭名類聚鈔
萬葉和歌集
日本後紀
宗吾記
源平盛衰記
紀貫之集
後撰集
新千載集
公忠集
夫木抄
兼行法師集
太平記
尺素往来
御供古實
親元日記
條々聞書

武雜記

萬技書條々

正月御事始之記

隨兵日記

私力記

古實條々

成日記

御成次第古實

常照愚草

貞助雜記

蟠川道標記

用害記

天和問答

松永問答

塹囊鈔

愚得隨筆

本朝軍器考

軍器考餘篇

軍器考餘評

軍器考補正

故實雜集

小笠原長時書

画圖目錄

攝州住吉社神宝燧袋之図

藤九短刀燧袋之図

或家藏古製燧袋之図

伊勢家燧袋之図

今川義元形燧袋之図

松井家所藏燧袋之図

古製印籠形燧袋之図

日下部景衡燧袋之図

千葉介常胤燧袋之図

鳩丸短刀燧袋之図

岡田宗相所傳燧袋之図

巨勢家燧袋之図

古製燧袋之図

義經形ト云燧袋之図

古製紙燧袋之図

辻氏所藏燧袋之図

津山藩正木氏燧袋之図

軍用記燧袋之圖
真野家所傳燧袋之圖
浮世又平画燧袋之圖
古画卷物之内燧袋之圖
古製燧鎌之圖
同付竹之圖
保元物語古画燧袋之圖
後三年合戰繪燧袋之圖
職人盡歌合繪燧袋之圖
一編上人繪燧袋之圖
春日驗記繪燧袋之圖
曾我物語繪燧袋之圖
大念佛寺緣起燧袋之圖
十界因燧袋之圖
壽命寺緣起繪燧袋之圖
法然上人行狀画燧袋之圖
東大寺古画燧袋之圖
画師草紙燧袋之圖
或家藏古画燧袋之圖
燧袋圖考目錄終

引用書記

日本書紀景行紀云放
火燒其野王知被欺則
以燧出火之向燒而得
免王曰殆被欺則悉焚
其賊衆而滅之故号其
處曰燒津
古事記云倭比賣命賜
草那藝劔亦賜御囊詔
曰若有急事解茲囊口
中裏到相摸國之時其國
造詐白於此野中有大
沼住是沼中之神甚道
速振神也於是看行其
神入坐其野示其國造
火着其野故知見欺而
解開其姨倭比賣命之
所給囊口而見者火打

有其裏於是先以其御
刀薙搔草以其火打而
打出火著向火而燒退
還出皆切滅其國造等
即著火燒故於今謂燒
遺也

倭名類聚鈔云古史考

云燧人氏造鑽燧音遂和名

比字始出火

萬葉和歌集更來贈歌

云波里夫久路已禮波

多婆利奴須理夫久路

伊麻婆衣天之可於吉

奈佐備勢世説二須理夫久路ハ火

打袋ノ異名ト云故ニ與ニ記ス

日本後紀云烽燧之事

延曆十五歲九月己丑

勅云非常之備不可暫

關宣山城河内兩國使
處置烽燧

宗五記云燧袋ハ四十以後

中畧晴ノ時ハシシヤク有ニ殊

ニ大ナルワロシ去入道宿老

クルシカラス

源平盛衰記神鏡神璽

都入条云景行天皇四

十年冬十月朔癸丑日

本武尊中畧叙ニ付タル錦

袋ヲ披見ルニ燧アリ尊自

石ノカトヲ取テ火ヲ打出

ニ是ヨリ野ニ付夕六風忽

凶徒悉燒亡又偕コソ其

所ヲハ燒詰ノ里トハ申ナレ

是ヨリニテ天叢雲劔ヲ

ハ草薙ノ劔ト名タリ彼

燧ト申ハ天照太神百王
ノ末ノ帝マテ我御貌ヲ
見奉ニトテ自ラ御鏡ニ移
サセ給ケルニ初ノ鑄損ノ
鏡ハ紀伊國日前ノ宮ニヲ
ハシマス弟二度ノ御鏡ヲ
取リ上御覽シケルニ取弛
レテ打落シ三ニ破クルヲ
燧ニナシ給ヘリ被燧ヲ
錦ノ袋ニ入レ劔ニ付ラレ
タリケル也今ノ世マテ人
ノ腰刀ニ錦ノ赤革ヲ下ケ
テ燧袋ト云事ハ此故也
錦ノ赤革ト云ハ赤地ニ白ク
文ヲ染出シタルヲ云ヘルニヤ
同書圓滿院大輔登山
条云圓滿院ノ大輔ハ宇
治ノ軍ヲ遁レ出テ本寺ニ
歸テ息ツキ居タリケルカ

中畧

今寺門ノ面目ヲ失フ

事生々世々ノ怨敵ナリ
速ニ登山シテ堂舎佛閣
悉ク魔滅ノ煙トナサハヤ
ト大惡心ヲ起シ火打ツケ
竹硫黄ナト用意シテ火
打袋ニシツラヒ入形ヲ修
行法師ニ作りナシテ山門
ヘコソ忍ヒ登レツケ竹トハ
ニヤ信州本曾ナトニツケ尊ナル
云タケアリトソ此尊ニ火ヲ付ル
ニキエスト云ヘリ又ハ硫黄ヲ
付タルツケホナラニ歟
紀貫之集云モロキノ少
將モノヘ行クニ火打ノ具シ
テ是ニタキ物ヲクワヘテ
ヤルニヨメル

オリノニ打テタクヒノ
煙アラハ心サスカヲシノベト
カ思フ

後撰集云離別ミチノク
ヘマカリケル人ニ火ウチヲ
ツカハストテ書ツケ侍リ
ケル貫之

ヲリくニウチデタク火ノ
烟アラハ心サスカヲレノド
ソ思フ

為家卿抄云サスカハ腰カナリ
火ウチヲ付タリ云

同集遠キトコロヘマカリケ
ル友タチニ火ウチニソヘテ
ツカハレケル

此タヒモ我ヲワスレヌモノ
ナラハウチミム度ニオモ
ヒイテナニ

新千載集親盛カラ物ノ
使ニテユクニカ子ノ火打ホ
クソニツメラレテレノブ
スリノ袋ニ敦忠

ウチツケニ思ヒ出ヅヤト
フルサトノレノブ草ニテ
スレルナリケリ

ホクソハホクナナルヘシ夫木抄
云六帖題本笠内大臣打イタス
火ウチノ石ノホクソナレ何ニモツ
カヌカ身ナリケリ

公忠集云井ナカヘクタル
人ニシロキフクロヲアラキ
モノレテスリテヒウチヲ
ソヘテヤルトテ

ウチ見テハ思ヒイデヨト
我ヤトノ忍フ草シテスレ
ルナリケリ

袋トアルハ火打袋ナランニヤ白キ
絹ニ青キ文ヲスリタルヲ用ヒナレシ
兼行法師集淨弁律師
カ築紫ニマカリ侍リシニ
火ウチヲツカワストテ
ウチ捨テワカル、ミチノ
ハルケサニシタフ思ヒヲ

タ、一テソヤル
太平記公家武家栄枯
易地余云五番ノ頭人ハ只
今シタテタル鎧一縮ニサノ
カケタル白太刀ツカサヤ皆
金ニテ打タ、ミタル刀ニ虎
ノ皮ノ火打袋ヲサケ一様
ニコレヲヒク
是虎皮ニテ火打
袋ヲ作レルナルニシ
同書北野通夜物詰条
云又アル時青砥左衛門
夜ニ入テ出任シケルイツモ
火打袋ニ入テ持タル錢ヲ
十文取リハツシテナタリ川
ヘソ落シ入タリケル
尺素往來云當世人々
火燧袋之底面々小藥
器之中必有持之以不
得貯為耻辱候

御供故實
伊勢貞
藤記云御前
ナト又六晴ノ時刀ニ火打
袋サケ候事若キ方ハア
ルマシキ事ニ候四十以後
ハ御前モサケ申候但御
給ニ候ハ若人ニモクルニ
カラス候

親元日記
徳川新右衛門
少尉記寛

正六年三月四日將軍

家花所覽条云御長持

一也常御直垂御大口

御腰物火打袋

條々聞書
伊勢貞
藤記云火打

袋ハ四十以後サクル但ソ

レモ晴ノ時ハ斟酌アルヘシ

殊ニ大ナルハワロシサリナ

カラ宿老入道ハクルニ

カラス

武雜記伊勢貞孝記云御前又ハ

晴ノ時火打袋ヲサケ候

事若人ハアルマシク候四

十以後ハ不及御案内申

上候テサケ可申候但病

者ナトハ藥ヲ入候間若

キ人モ御案内申上候テ

サケ候ハニ款

萬拔書条大維尚氏記云火打

袋四十以後但大成者

不可然斜領者無是非

候

正月御事始之記伊勢貞久記

云刀ヲ人ニ遣候時自然

火打袋ヲサケ申候時ハ

取候テ懷中仕候テ可

出候袋トモニ遣事不可

有之

隨兵日記異本云火打

袋ハ無用ノ事病者ナト

ハ可被用候

伊勢守貞宗朝臣記云

ワカキ方ハ御前ハ努々

御サケ候マシク候四十以

後御サケ候由夫モ自

然病者ナトニツキテ御

免アリテ御サケアルヘク

候リウニ御サケ有マシ

ク候惣別ハレノ可ハ無

益ニテ候

私力記伊勢貞久記云火打袋

ノクスリヲ人ノ期望ノ時

ハ不及斟酌可遣ニテ候

其時ハ先少タベ候テサ

テ可遣候貝ナトニ入タル

ヲハ其マ、可忝候取ワケ

テ進之候事イカニテ候也

古實條々伊勢貞云ワタマシ

ノ時火打袋サケマシク候

又禁句ヲタシナムヘシ

成日記小笠原持長記軍ハヤウ

旅行ニハ必々太刀ニ著ル

也制法ヘナニアラヌ則弦

袋ヲ用タルナリ是ヲ太刀

ノアシニク、リ付ヤウ秘

傳ナリ

御成次第古實伊勢貞云

御前ナト又ハハレノ時刀ニ

火打袋サケル事アルマシ

ク候四十以後不苦候但

若トモ御給候ハ不苦

候也年寄候者ハレナトハ

不可然候

常照愚草伊勢貞云火ウチ

袋ノ事四十以後ハサケ候

テモ不苦候ト瑞笑ナトモ

書ヲカレ候シカレトモ晴カ

マシキ時五十之内ハ用捨

モ可有之欲堅固若輩モ

御旅ノ時ハ不苦候

貞助雜記伊勢加賀守記云火打袋

ハ公界ヘモサケ申候哉四十

以後ハサケ申テモ不苦也

然トモ殿中ハ御案内申

入サケ可申候歟不断被召

仕候衆ハ病者ナトハ四十

ヨリ内ニモサケ申ヘシ晴ノ

時ナトハ斟酌アルヘシ大キ

ナルハワロシト去老者亦

ハ入道扱ハ不苦也

蜷川道標記云火打袋ノ

事若キ方ハ御前（努々御
サケ候マシク候四十以後
御サケ候ヨシ夫モ自然病
者ナトニツキテ御免有テ
御サケ可有候リウニ御
サケ有マシク候惣別ハレ
ノ則ハ無益ニテ候

用害記

河村正
秀記

云火ウチ袋

ハ四十以後ヨリサケラレ候
ソレモハレノ時ハ可有斟酌
天和問答問者有河衛藤
答者伊勢貞孝
云御前マタハハレノトキ火
打袋ト有之火打フクロト
ハイカ、ノ事答云御前
ハレノ時ト云ハキツトシタル
時ヲ晴ノ時ト云火打袋ト
ハ只今ノキナヤク事ナリ
ソウヘツ四十以後サケ可

申候ソレモ病者ニ候得ハ
御コトハリ申樂入候タメニ
御サケ候

松永問答

同松永久秀
答伊勢貞孝

云火

打袋ハ無用欵之事病者
ハ可被用候

塩囊鈔云ヒウナト云字ハ
何ソ鑽ノ字ヲ用鑽ヲハ火
ヲキルトヨノハ心叶タリ但
三宝字類鈔ニハ燧ノ字ヲ
ヒウナトヨソリ

愚得隨筆云太平記師冬
自害条云モレ命ヤ助ル
ト心モオコラス出家シテ師
冬入道道常師泰入道道
勝トテ裳ナシ衣ニ提鞘サ
ケテ降人ニ成テ出ケレハ下略
本朝軍器考云織田殿ノ

比マテモ猶此物ノ事見エ
レト安士日記今ハカ、ルモ
ノツクル事ハ見エス近代ニ
及テ巾着ナトイフ物帶ニ
ツクル事ハ火打袋ノ遺俗
ナルニヤ

軍器考餘篇

宇田
吉淵記云火

打袋ハ日本武尊ノ時ニ始
テ見ユ信長ノ大臣ノ比マテ
モ見エタレト今ハカル物
ツクル事ハ見エスト注シ給
フハマコトニ其説ソナハリタ
ルニヤサレ氏日本武尊ノ比
ヨリ元暦建久ノ間八年ノ
ツイテモ遙ニ隔リヌレハ
猶心モトナクテ其物ノ見
エタル事ヲ考ルニ延喜延
長ノ程マテハ此モノ專ラ用

ヒレ事ニヤ又舞樂畫圖

ト云物左右ヲ別テ二卷ア
リ其圖ノ中ニ採葉老ト
云フ舞ノ出立ヲ見レハ老
翁ノ面ヲ被リ狩衣ノ如キ
物ヲ服テ腰ニサスカト云
物ノ如キ袋ヲ結ツケタル
ヲ火打袋トイフ物ノヨシ
伶人ノ家ニテハ傳ヘ云事
ニツ有ケル去トモ今云シ
物モ本文ニ注シ給シ物モ
共ニイカナル制ニヤトモ
思ヒタラム便リモナキ
力去ハ迄キ世モ此物ノ
絶スレテ残リレ事ノ知ラ
レタルハ宝永五年三月ハ
日京都ニ火災ノ災アリ
他則ノ行幸ニヨリテ宝

劔モ出タリシニ火打袋ト
云物トテ赤地ノ錦ニテ調
ヘタル袋ヤウノ物ヲ宝劔
ノ鞘ニ結付ラレタルヲ覽
給ヒタレトサハカシカリシ
カハ白地ニ見マイラセテ
其袋ノ形ハタシカニサト
リ給ハサリシトアル親王
家ノ御話マシマシケル由ヲ
聞シ事アリサレ江談
抄ニ見ユシ宝劔ノ鞘ニ卷
ツケラレ神重ノ御宮ノ
鑰ノ類ニモヤト猶考見ル
ニ此鑰ハ宝劔ノ組ニ纏ヒ
コモラレシ物ト見エタリ
亦被官方ノ覽給シハ正
シク錦ノ袋ナルコノ疑ヘ
クモナキ火打袋ナルヘシ

コノ物ヒロク世ニ傳ラ子ト
今ニ残リタルソイト目出
タキサテモ其袋ト云フ
物ノ圖ヲ貫之ノ歌ニ倅セ
見ルニ能力ナヒタル物ト
云ヘキモアリ

軍器考餘評

伊勢貞
文記

云火

打袋ノ形世ニ古キ形也ト
テ持タルモアレ其形一
様ナラス出所モオホツカ
ナニ職人盡歌合繪土佐
光信カ画シニ火打袋多ク
見タレ其形一様ナラス
是亦オホツカナニ鎌倉
實朝公ノ時飛彈守惟久
ニ画シノラレニ奥州後三年
合戦ノ繪ニ見ヘシ火打袋
ハ其形皆一様也其形鶏

卵ヲ横ニ倒シタルカ如シ其
ヨコタヘタル兩頭ヲ白ク丸
ク彩リタリ其處ヨリ緒
出テ刀ニ結付タル躰ナリ
其形△如此也画ナル故細
密ノ事ハ見サレトモ其形
狀大躰ヲ見ツヘシ推量ル
ニ横ノ兩頭ニロヲアケテ今
世ノ猿巾着ト云物ノ如ク
ニロノ廻リヲ袋縫ニシテ
緒ヲ貫キ括リタル物ナル
ヘシ太平記ニ青砥左衛門
カ滑川ヲ渡ル時火打袋
ヨリ錢ノコホレ落ケル事
見タリ是ハ其火打袋右ニ
云フ如ク横ツラニロヲ付
タル物ナルユヘ括リ緒ユル
ヒテ錢コホレ出ケルナル

ヘシ錢ハ重キ物ナレハ上ニ
向テタチヲ付タル袋ナ
ラハ錢ノコホレ落ル事ハ
アルヘカラス其勢ヲ考ヘ
見ルヘシ

軍器考補正土肥經
平記云火打

袋ノ事ハ軍器考ニ委ケ

注セリ法然上人ノ傳ノ画

ニ腰刀ニソヘテ佩タル燧

袋ノ形サマクナルヲ見

タレハ其制一ニアラヌモノ

ニソ昔ノ士ハ必刀ニ添テ

ツケルモノト見エシ

故實雜集云萬祝言ニ

付テ遠候物等用捨ノ事

ワタマシノ祝ニ火性ノ馬火

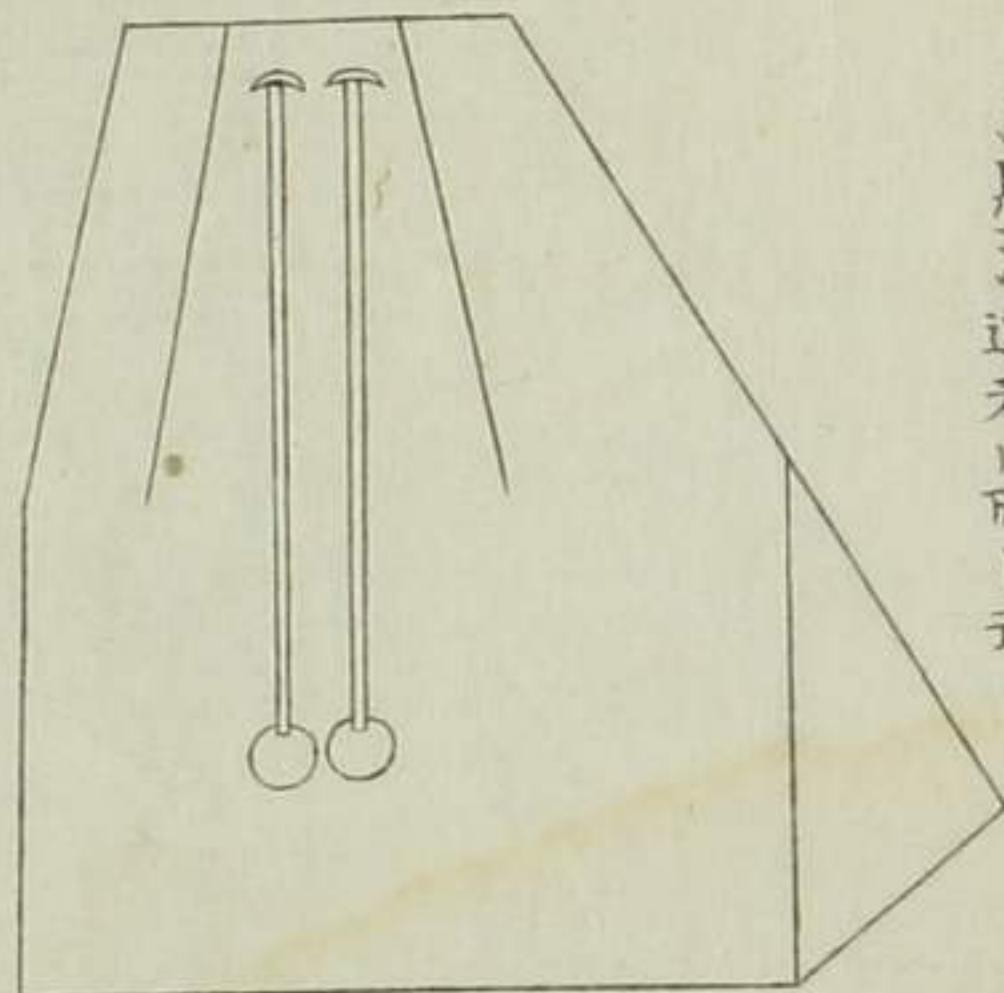
打袋ヒハ夕色アカキ色ノ

衣裳下畧

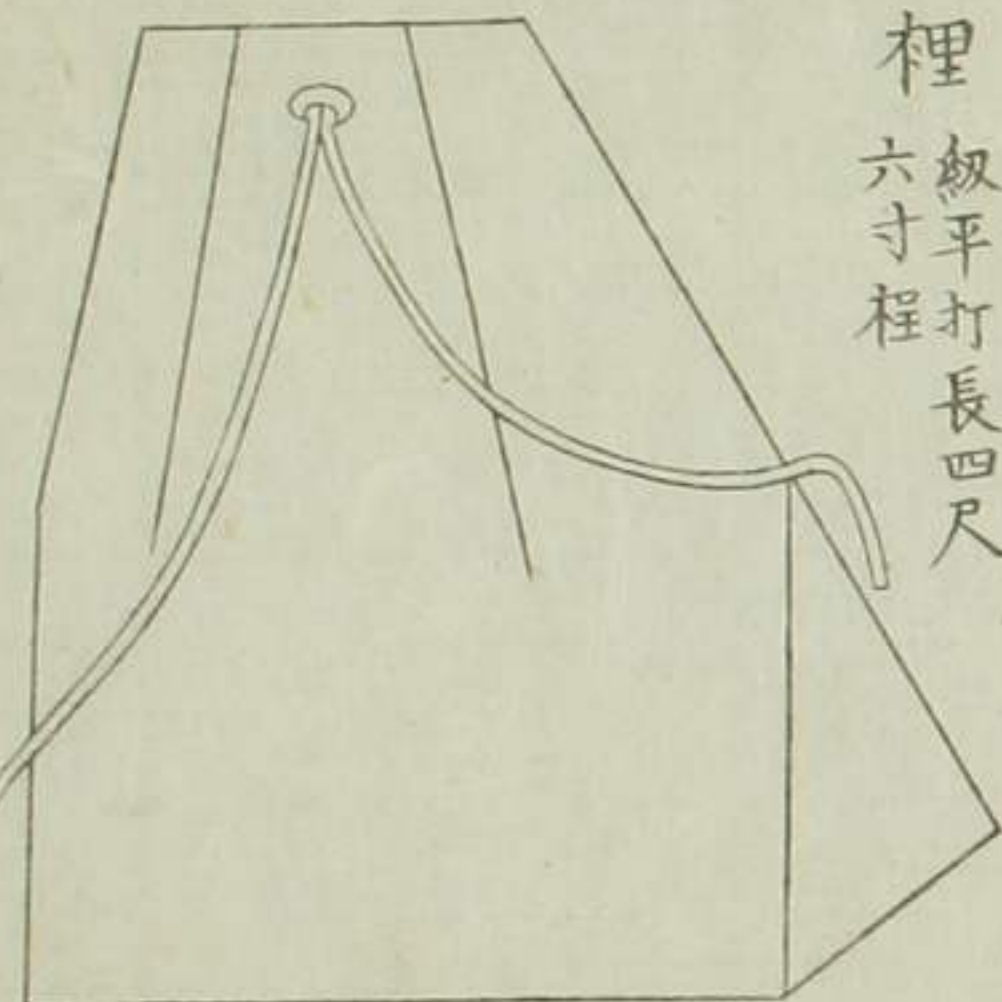
小笠原長時書云篋ノ引出ニ矢立ヲ入又燧ヲ入ル云々

攝州住吉神寶燧袋之圖

神功皇后三韓征伐ニ中臣
烏賊津連奉ル所ト云

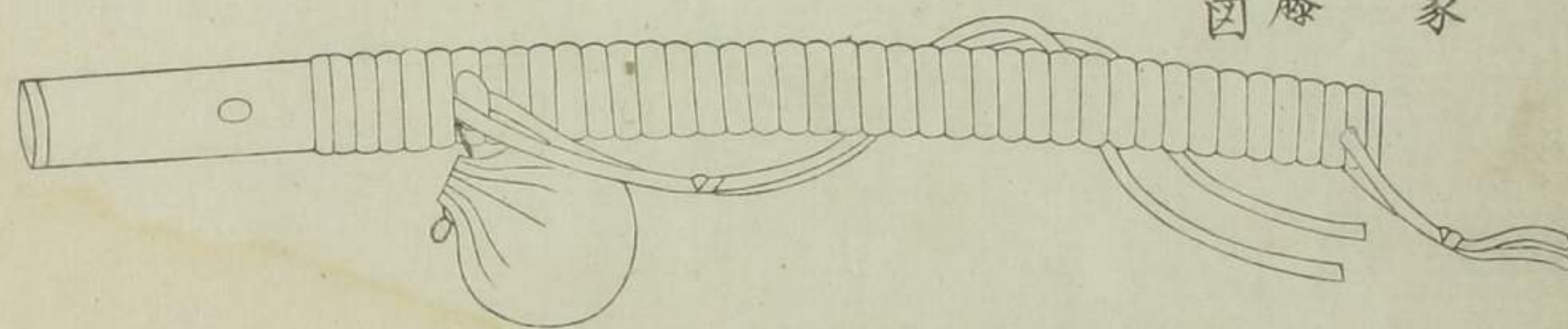


裡 級平打長四尺
六寸程



布ハ葛布ノ如ク今云洗柿ノ如シ表ニ
セキレノ如キ鳥ノ模様アリ裏ハ倭文
ナリ先ノ玉石トモニス岩ノ如キ物ナリ

大坂商家
所藏
義昭公藤
丸短刀之図

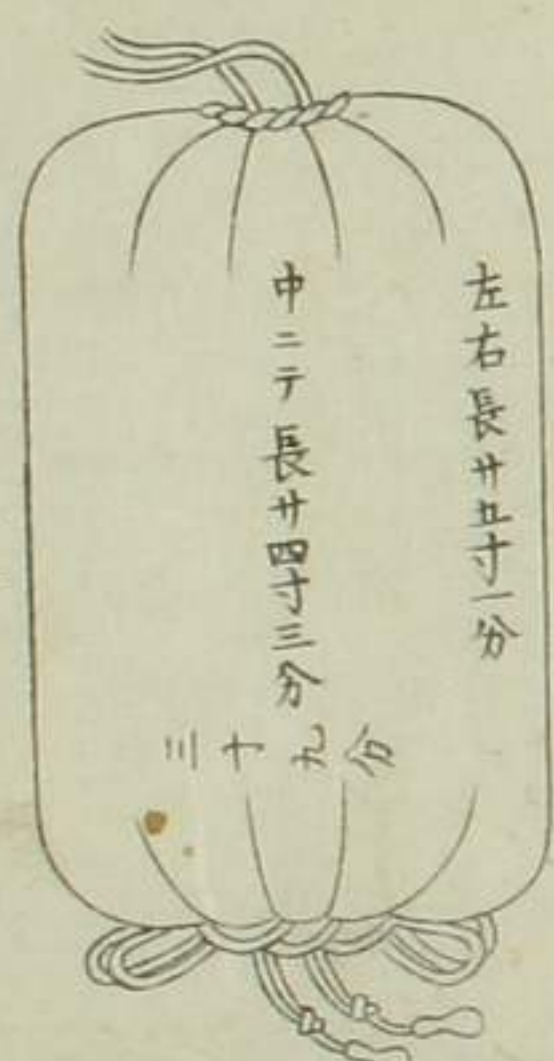


ハルニヤ草



或家所藏燧袋之圖

世二類
般トモ云



左右長サ五寸一分

中ニテ長サ四寸三分

川ナハ

カニリス又ヒノ十五

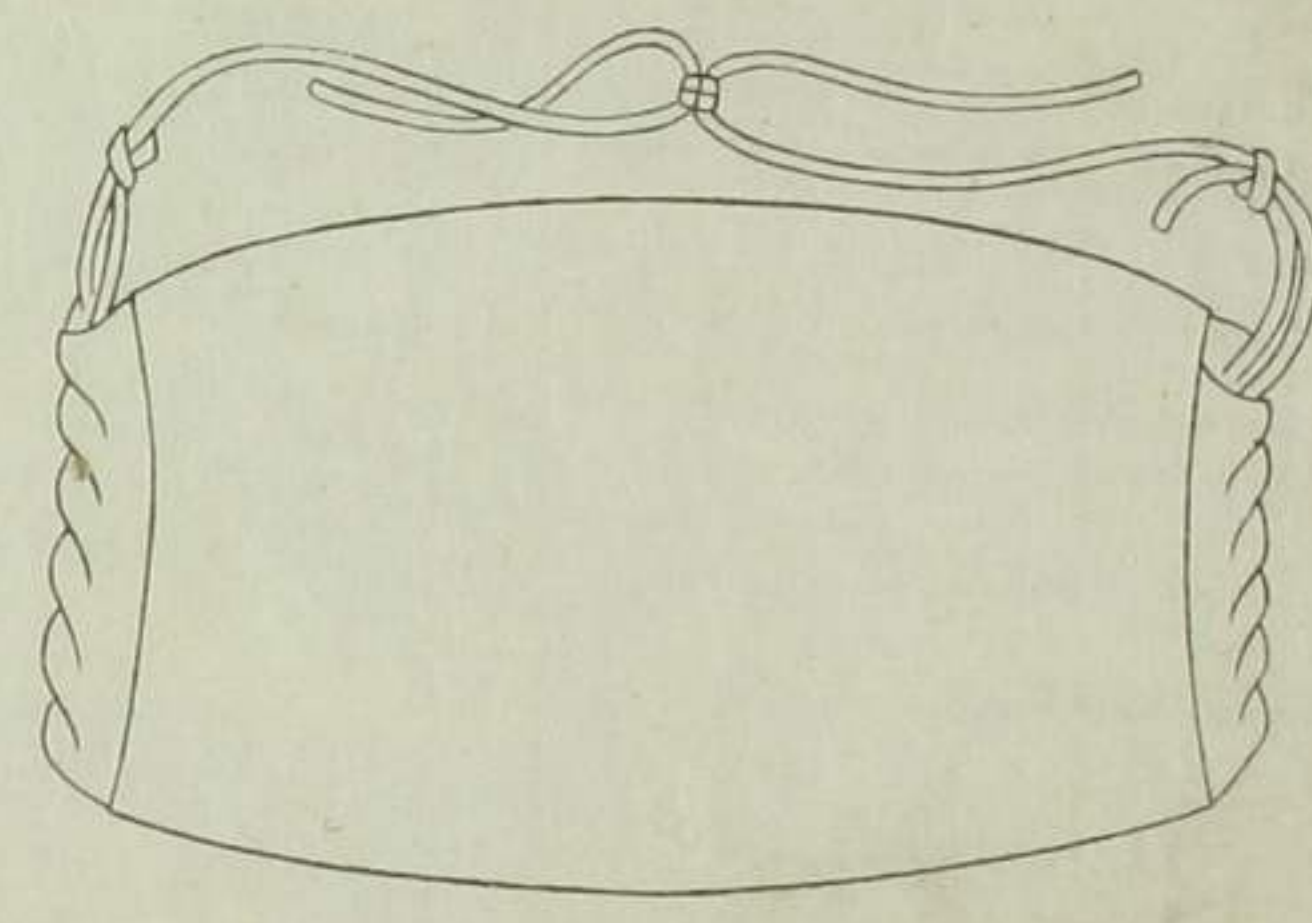
四方角ホコロビカケ五分ヲ、
ヒタ上下トモ七ツ、



根ツケ竹ノ切口
節ノマル

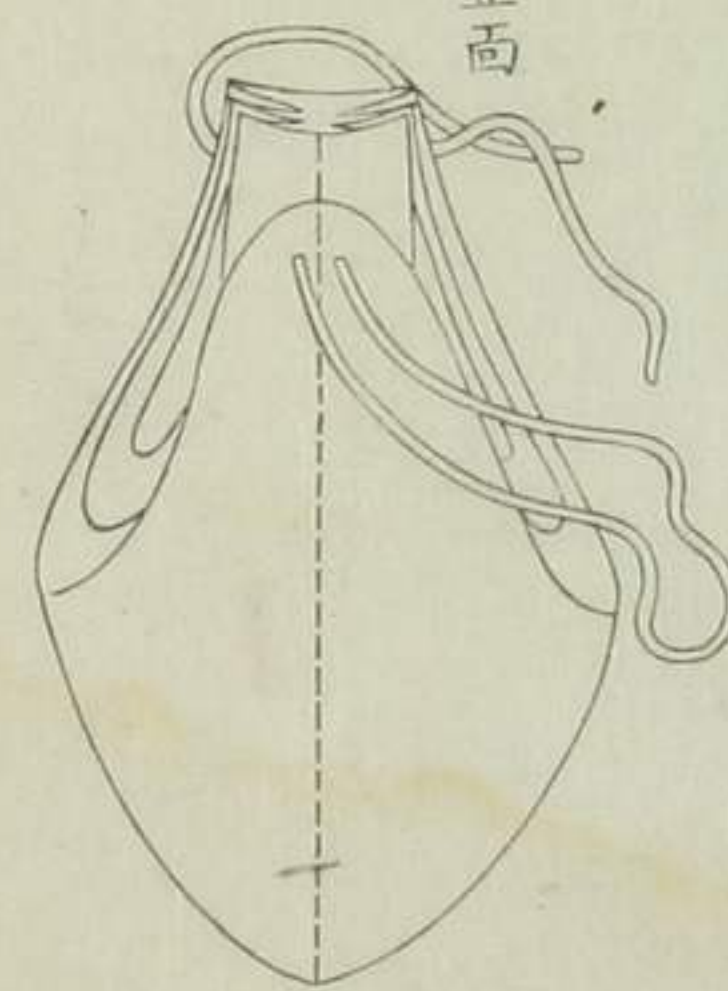
伊勢家所藏燧袋之図

西口ニテ後三年ノ繪ニ見タルト同シ

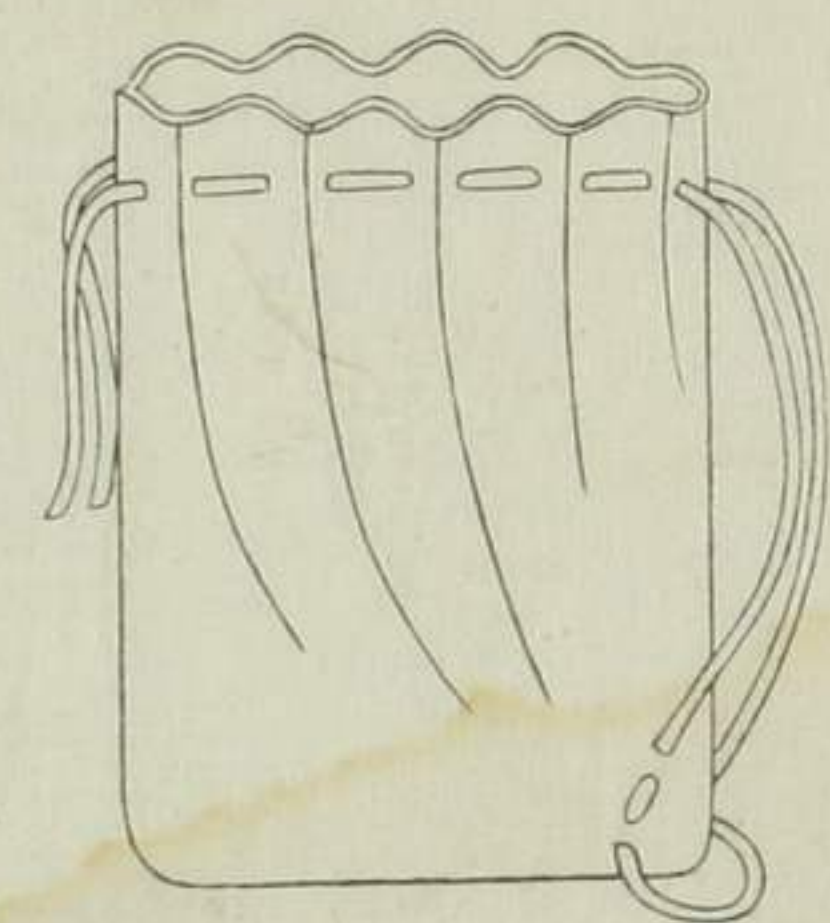


今川義元燧袋之図

正面

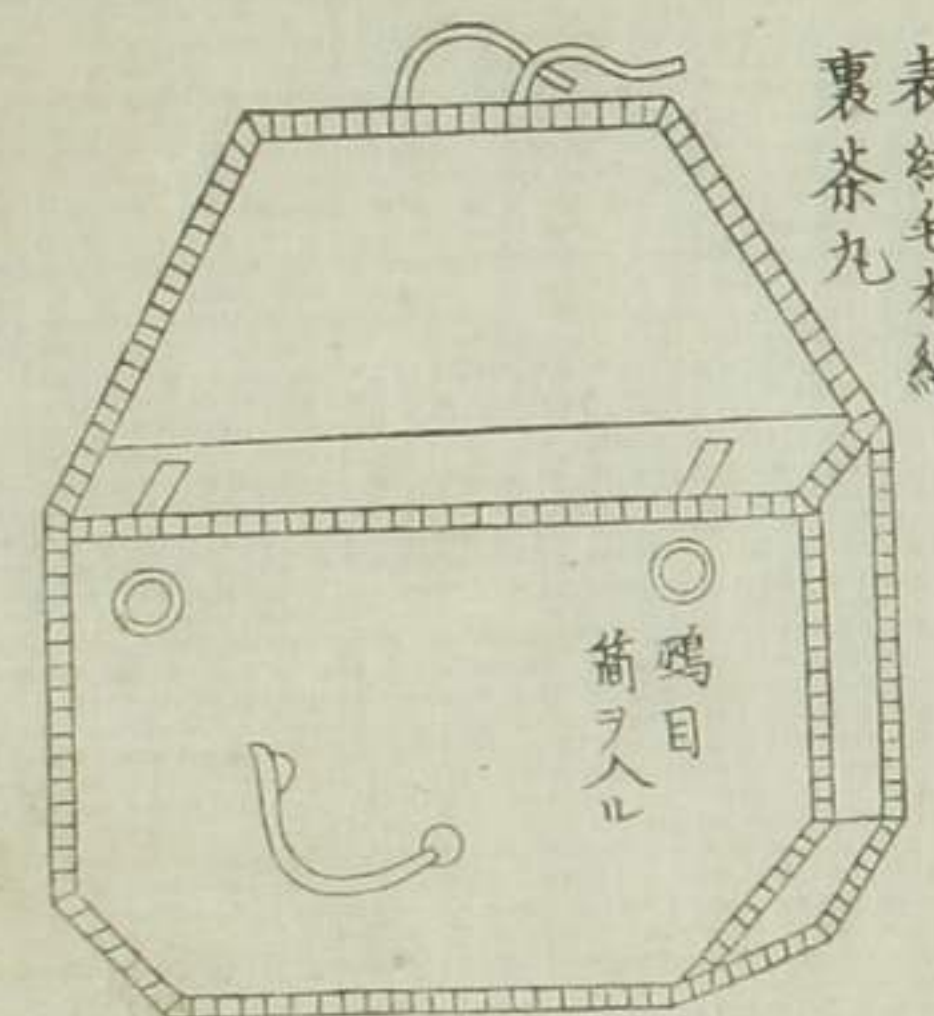


ヒラキタル形



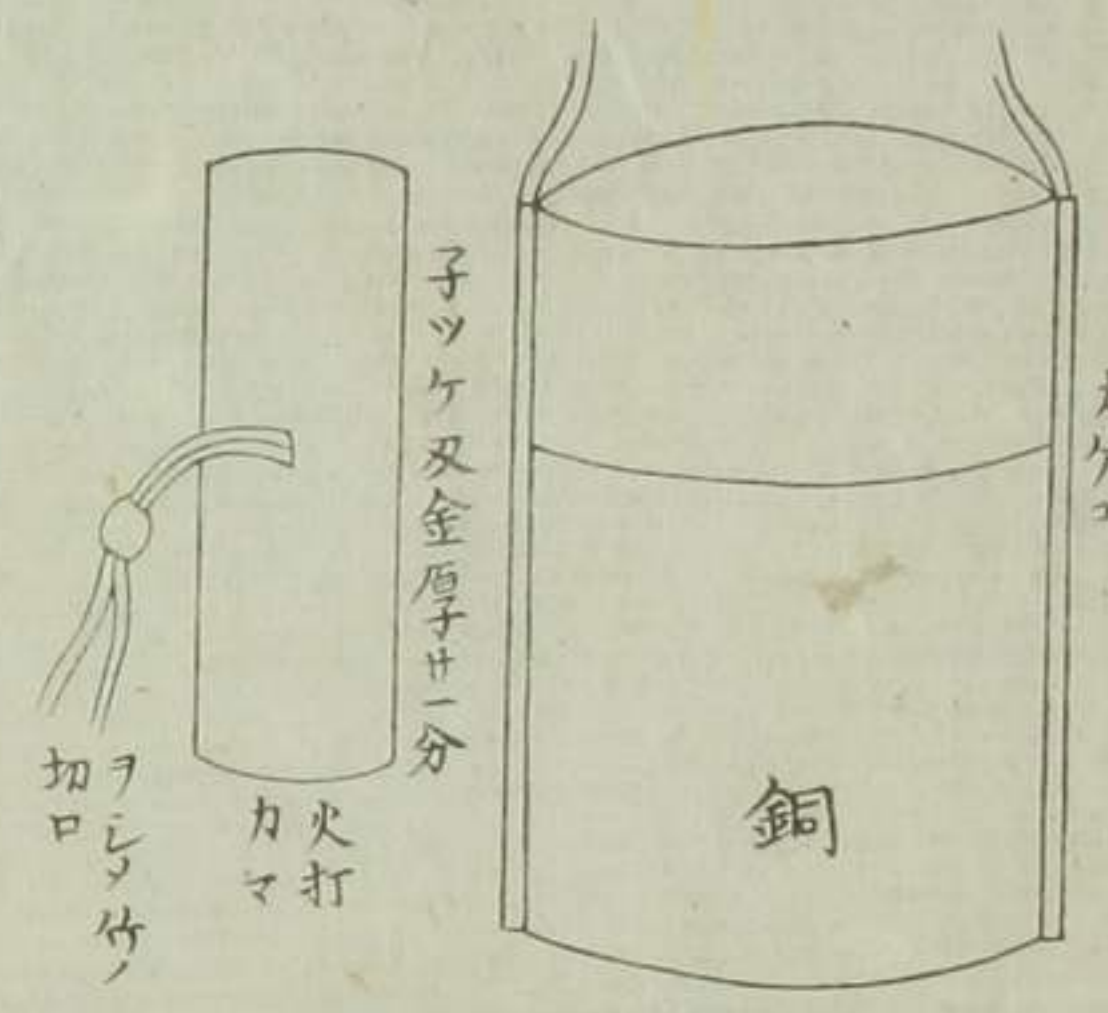
松井林徳所藏古製
燧袋之図

表紅毛木綿
裏茶丸



コノセカハ綴ヲ通シ上ニテ
四スレニナルヲ一所ニシテ
結メニテトメル

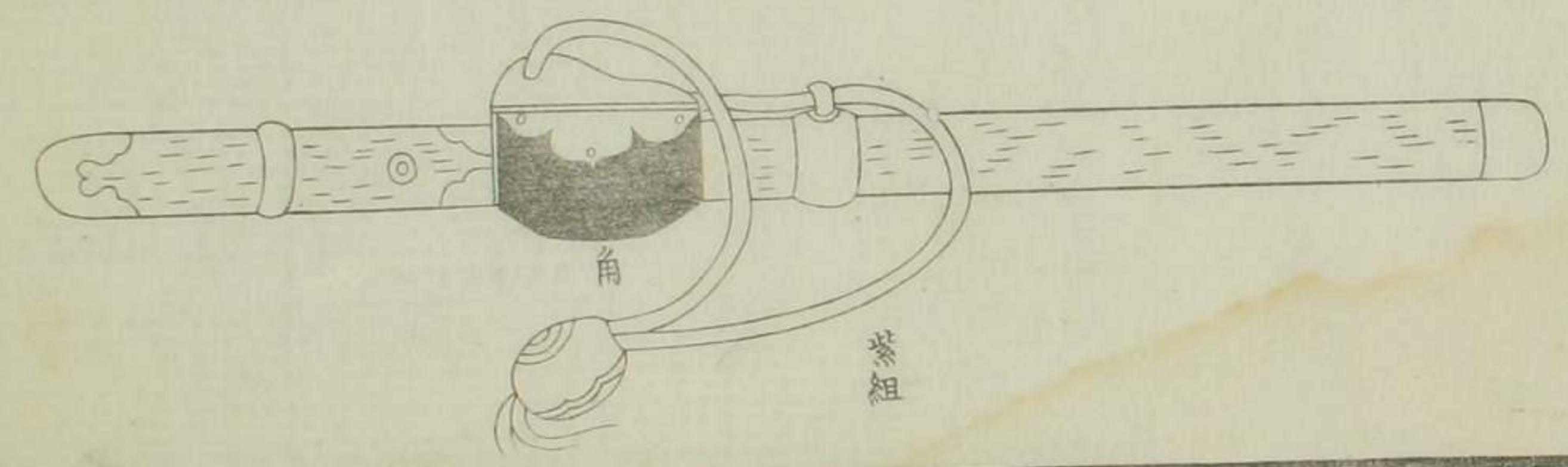
印籠形燧袋之図
是ヲ清正形トモ云



日下部景衡後三年ノ図ニ效テ
製シタル燧袋之図
縦長廿四尺ホト



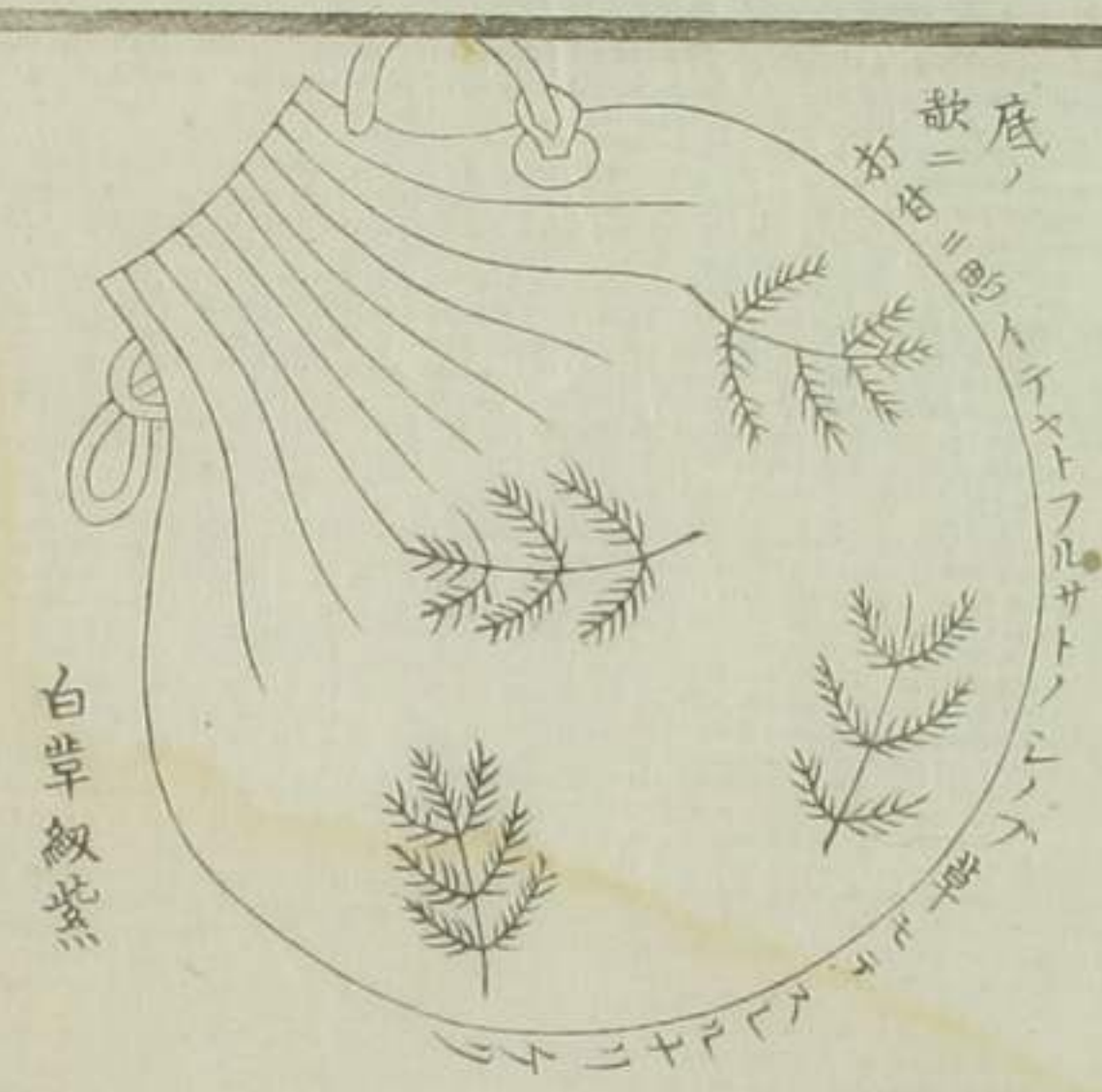
千葉介
常胤下
鞘燧袋
之図



袋地錦

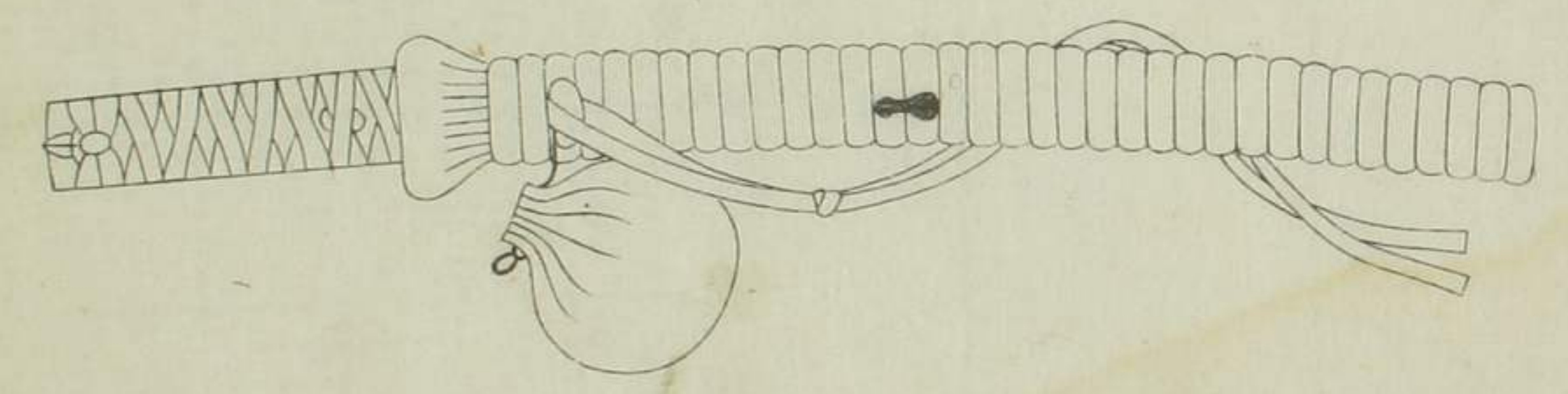


大坂商家所藏鳩丸
短刀燧袋之図

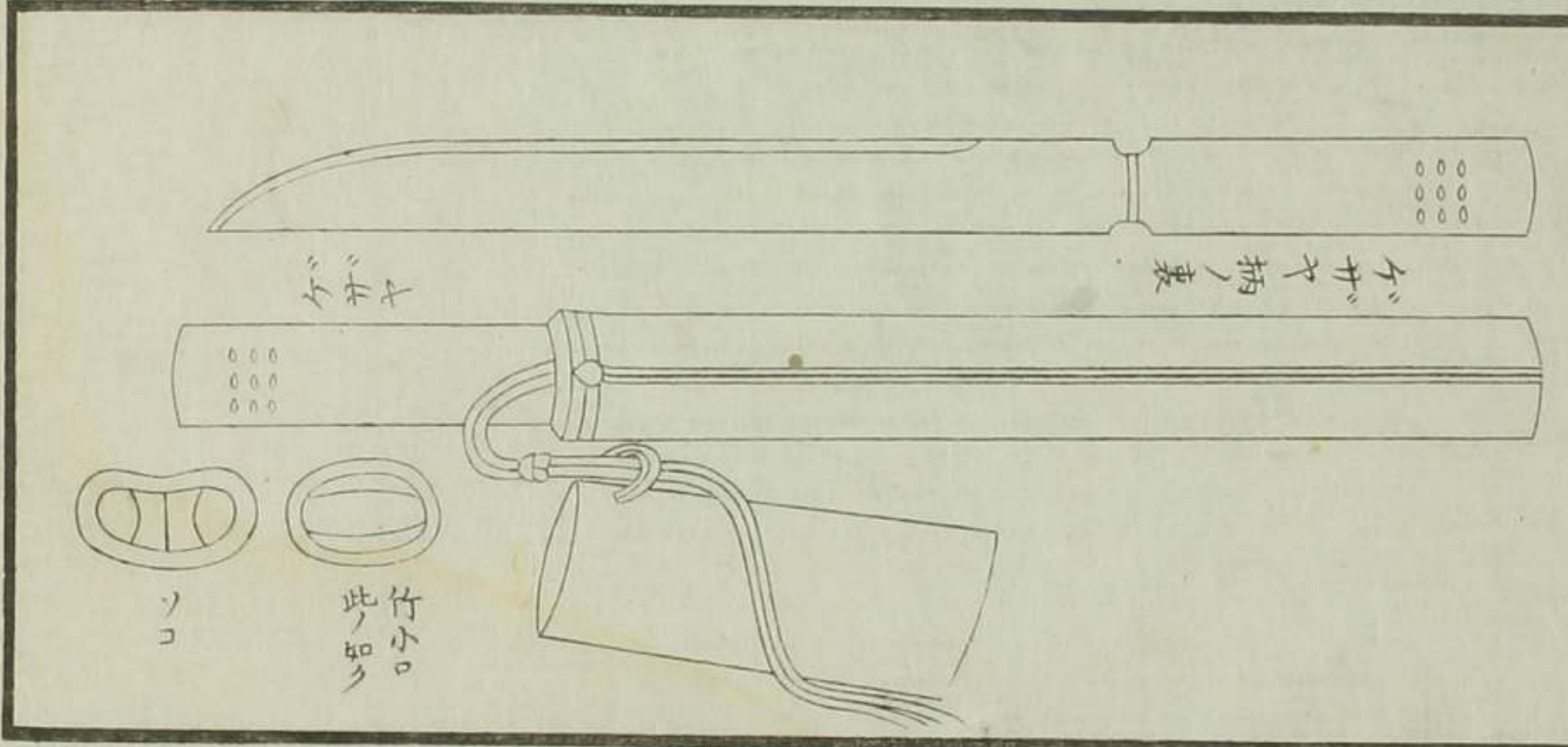


白草綴紫

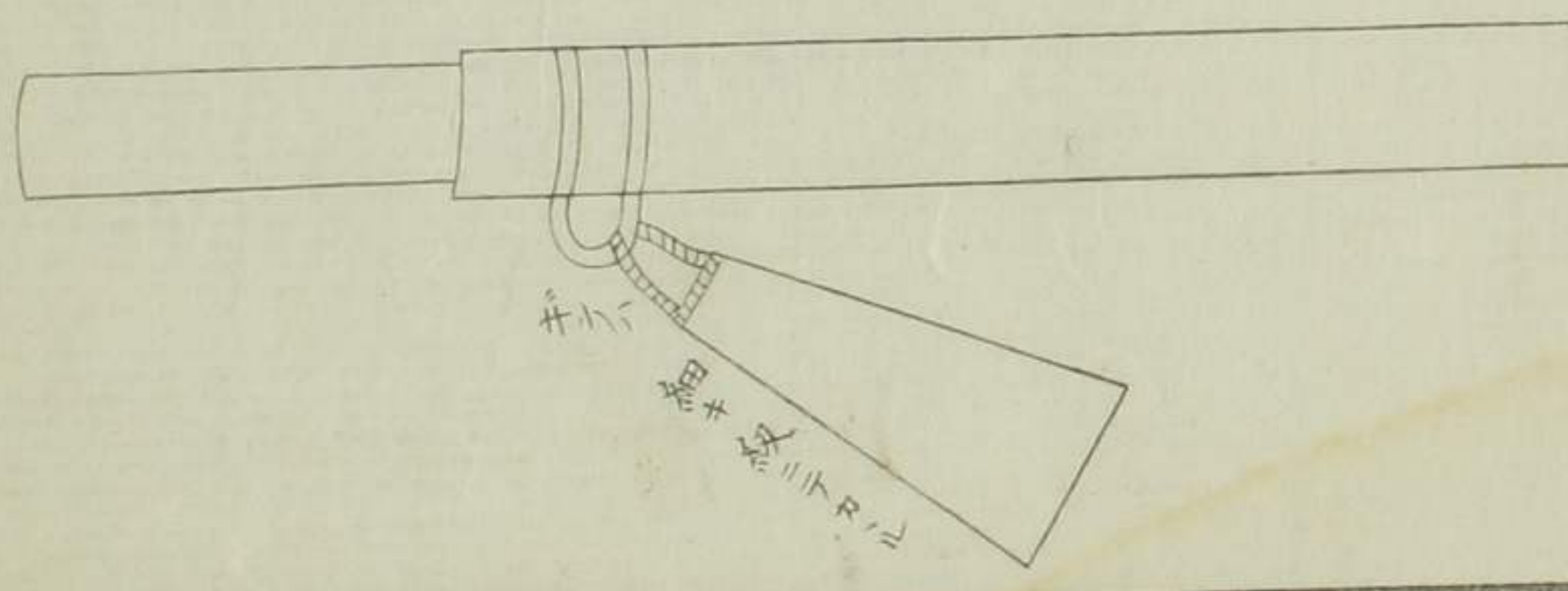
同短刀燧袋付タノ圖



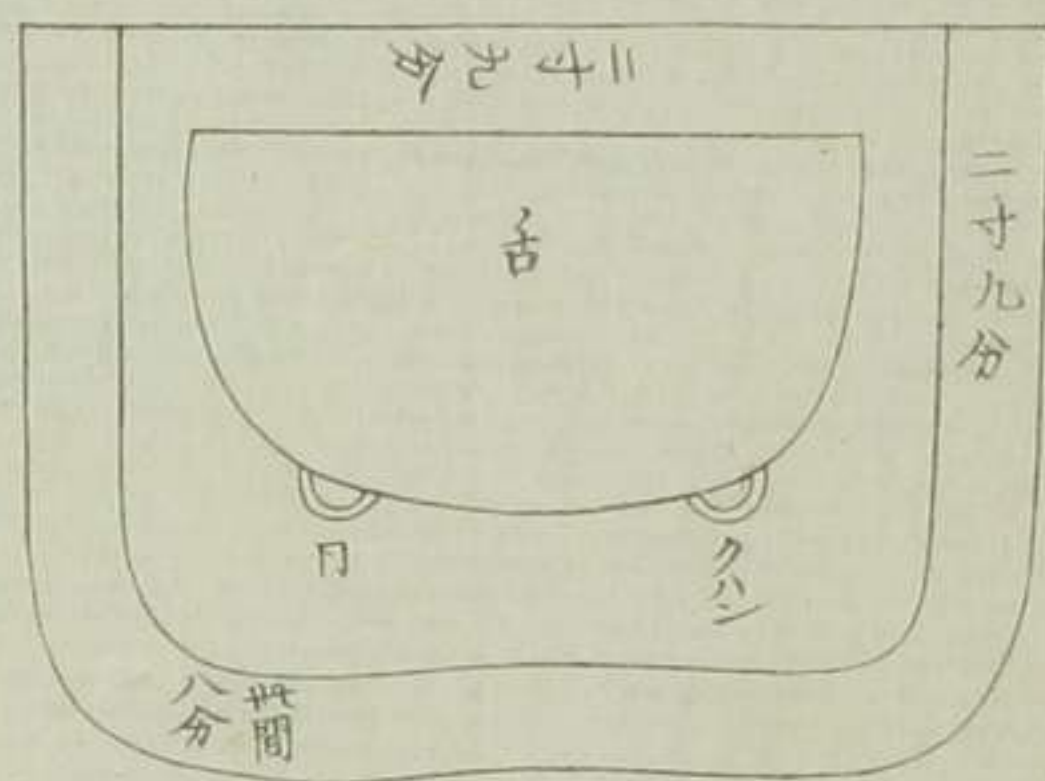
岡田宗桓所傳
 延享ノ頃ノ
 禮家ナリ
 燧袋之図



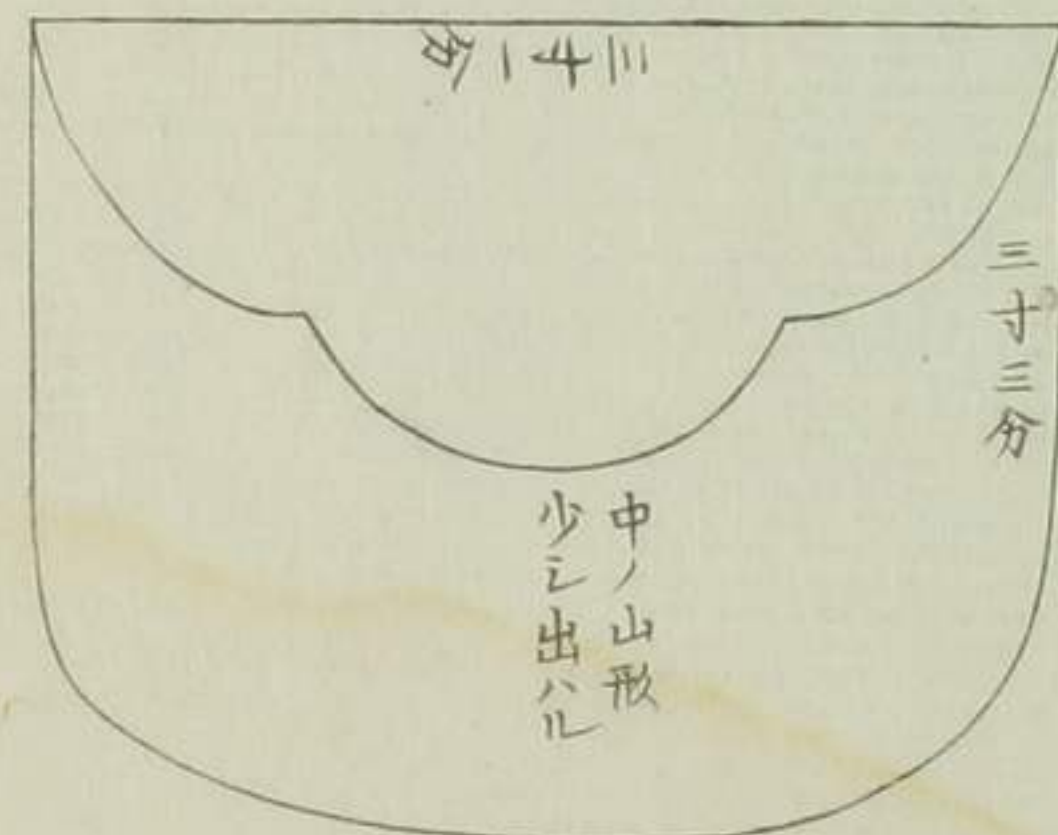
巨勢伊賀守所傳ケガヤニ
 燧袋付タル図



古製燧袋之図 世三青磁瓶
トモ云コ

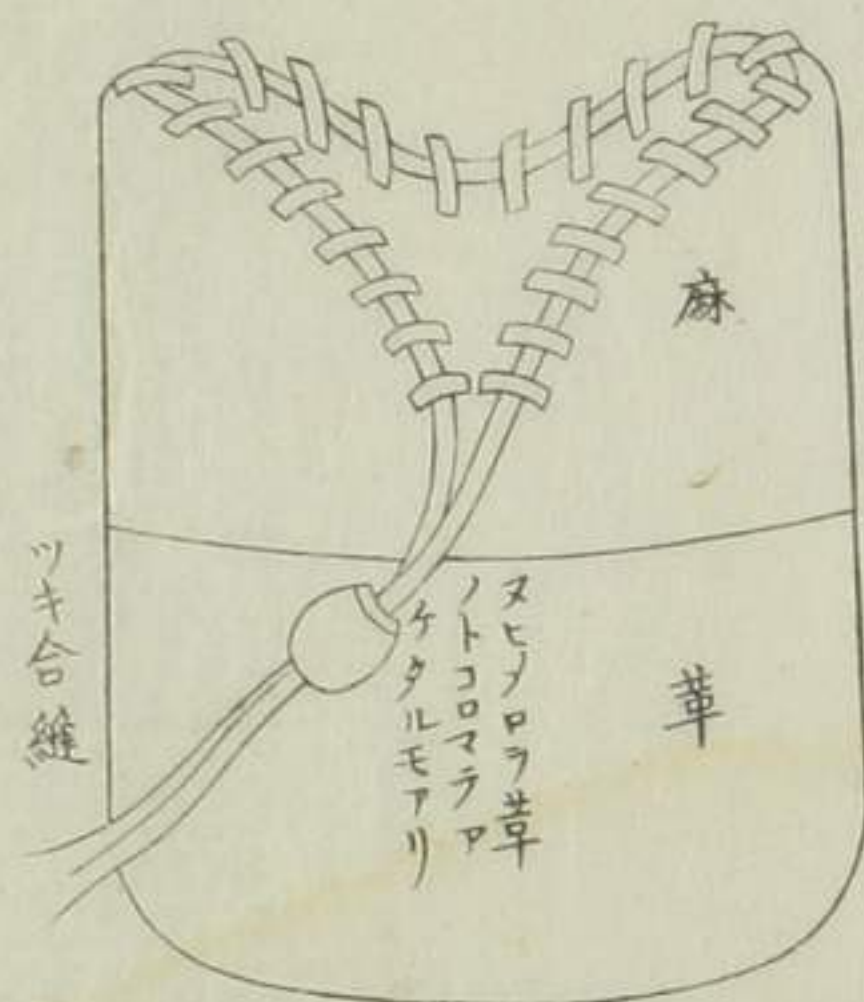


兩覆

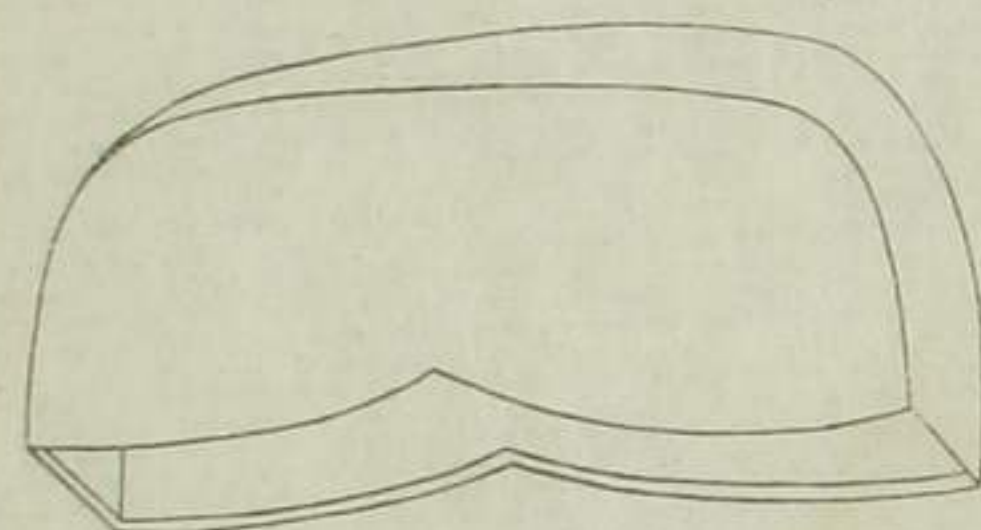


真中ニテ打合せ

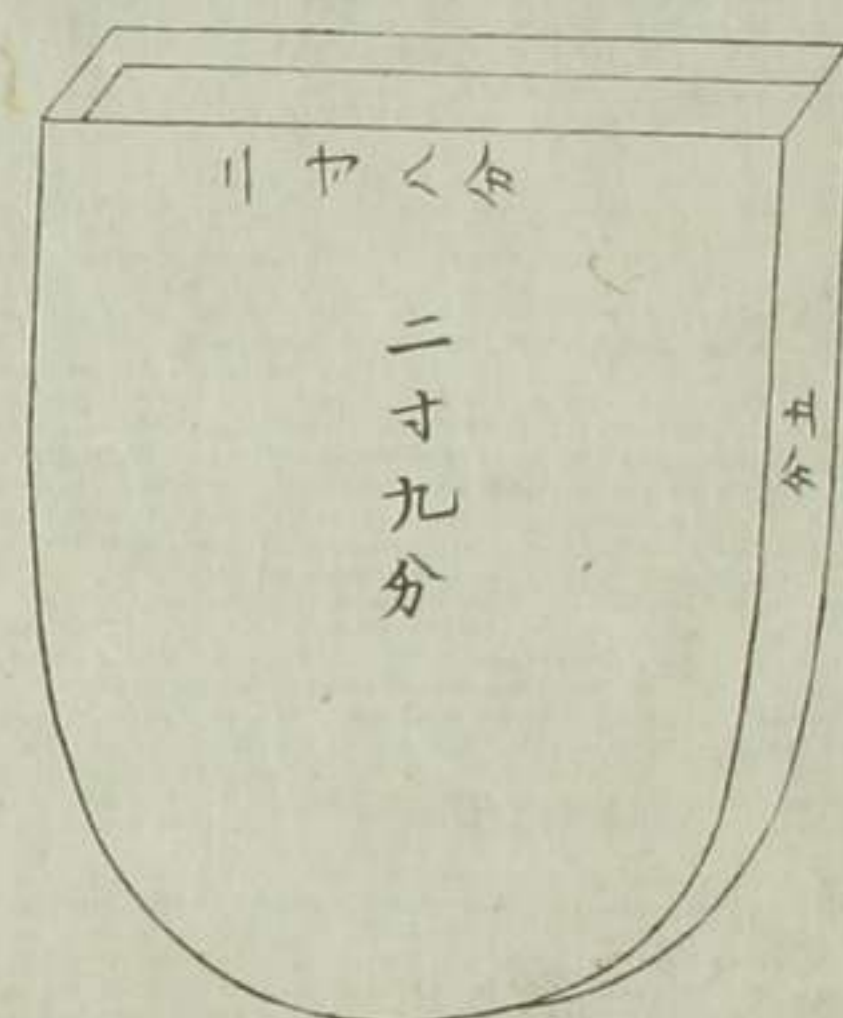
義經形ト云燧袋之図



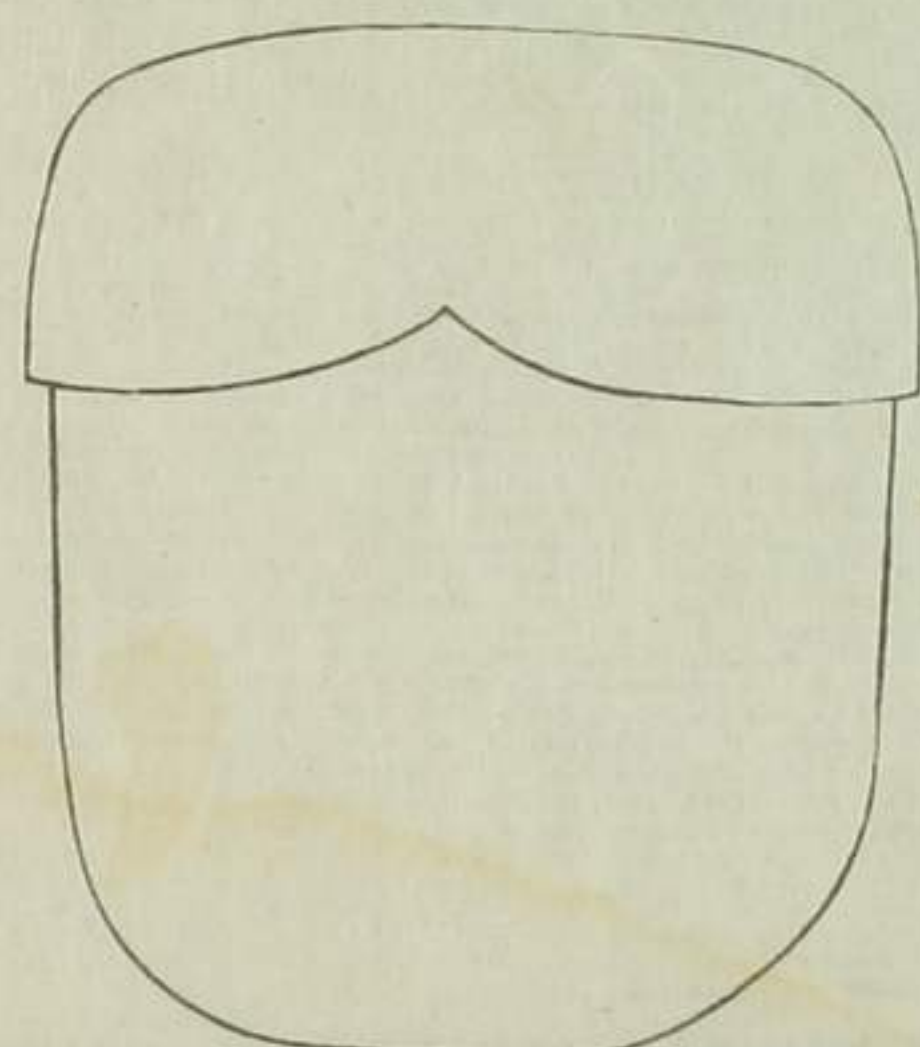
古製イタノ紙ニテ製ミタル
燧袋之図



表布裏白サマノルイ
ニテハル

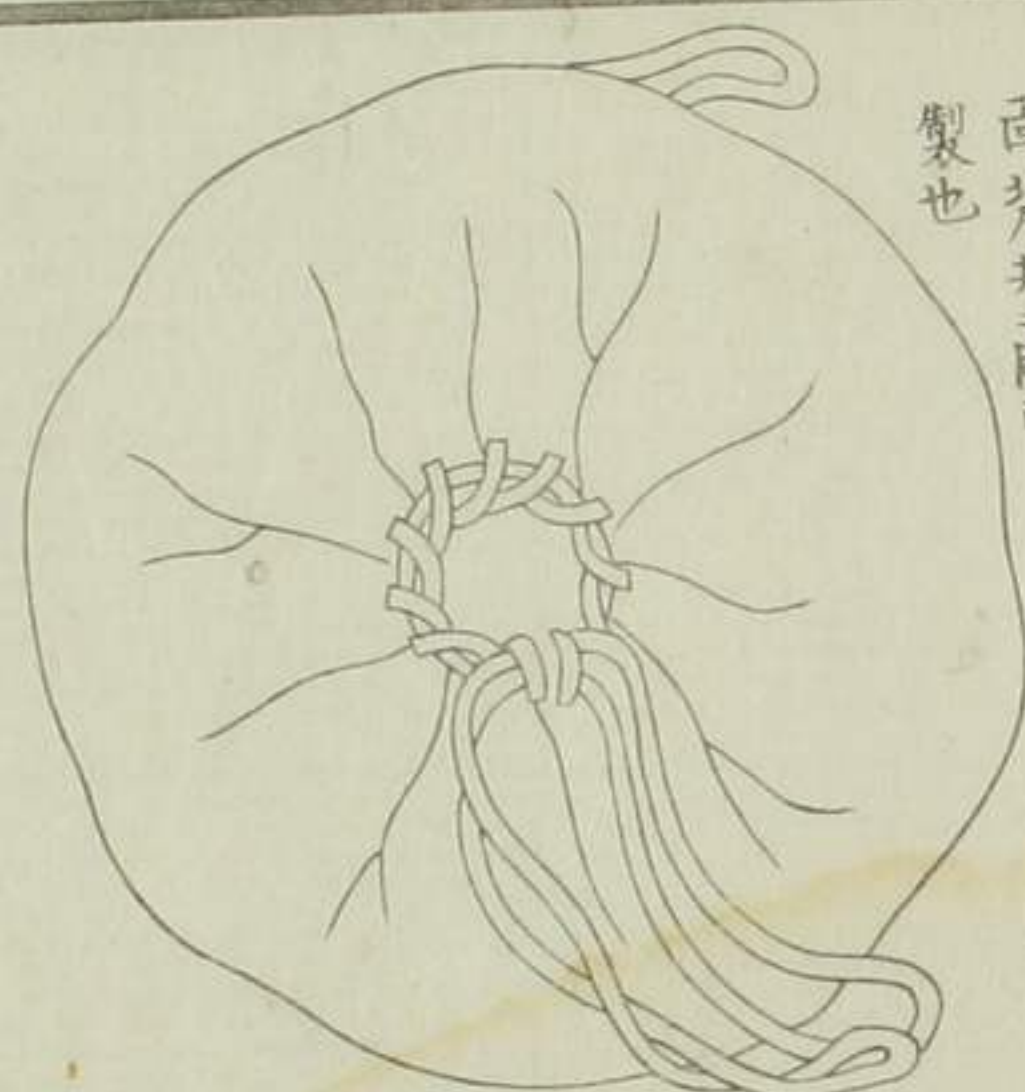


蓋ヲカケシ図

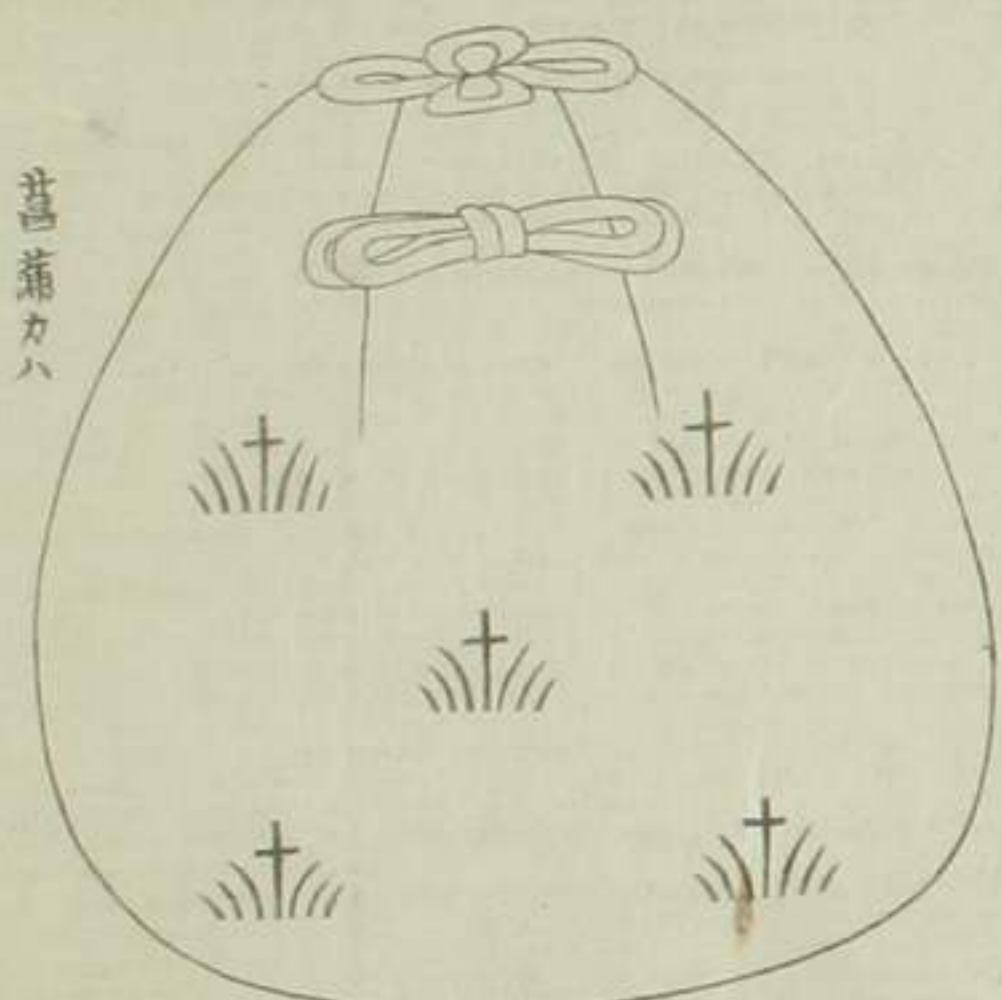


軍器考辻氏所藏
燧袋之図

面背共二同シ
製也

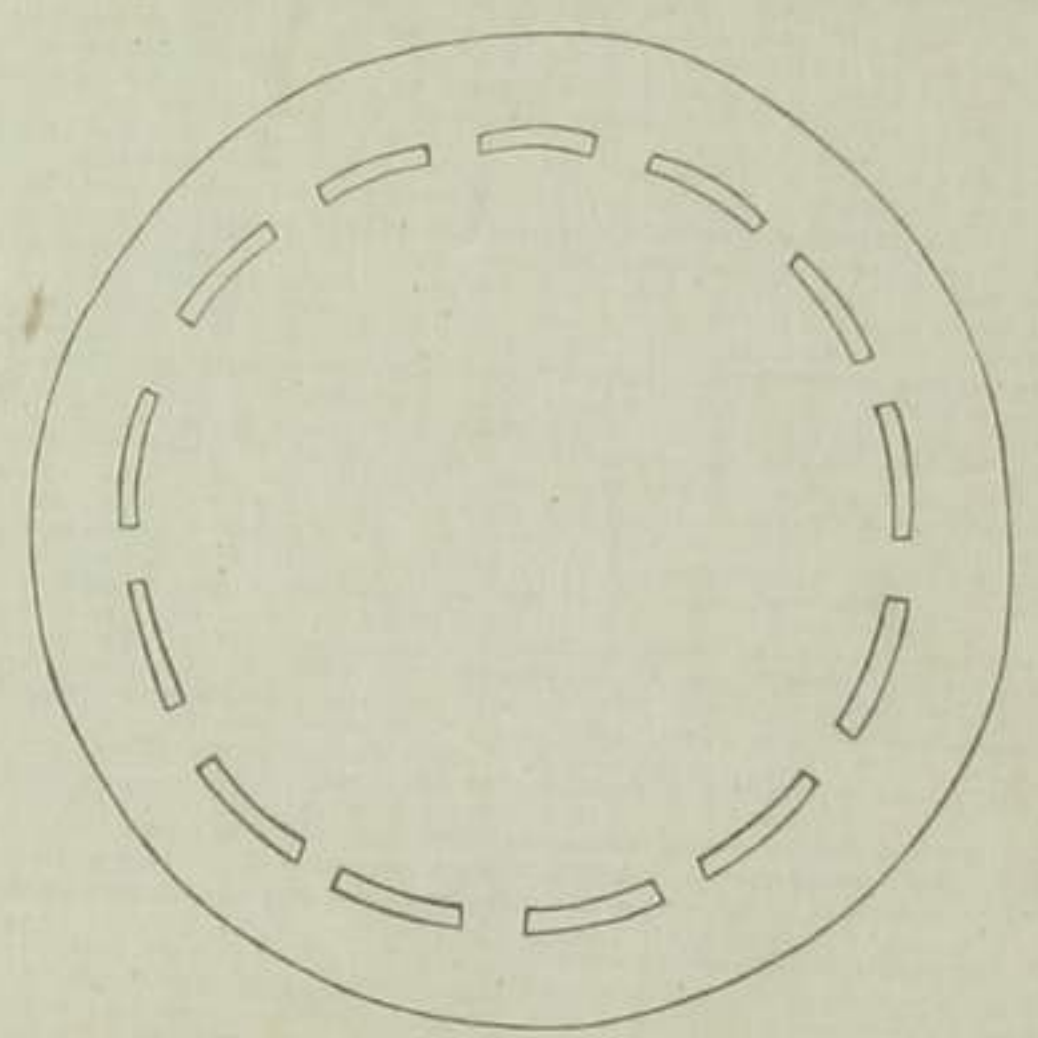


津山侯藩正木氏所藏
古製燧袋之図

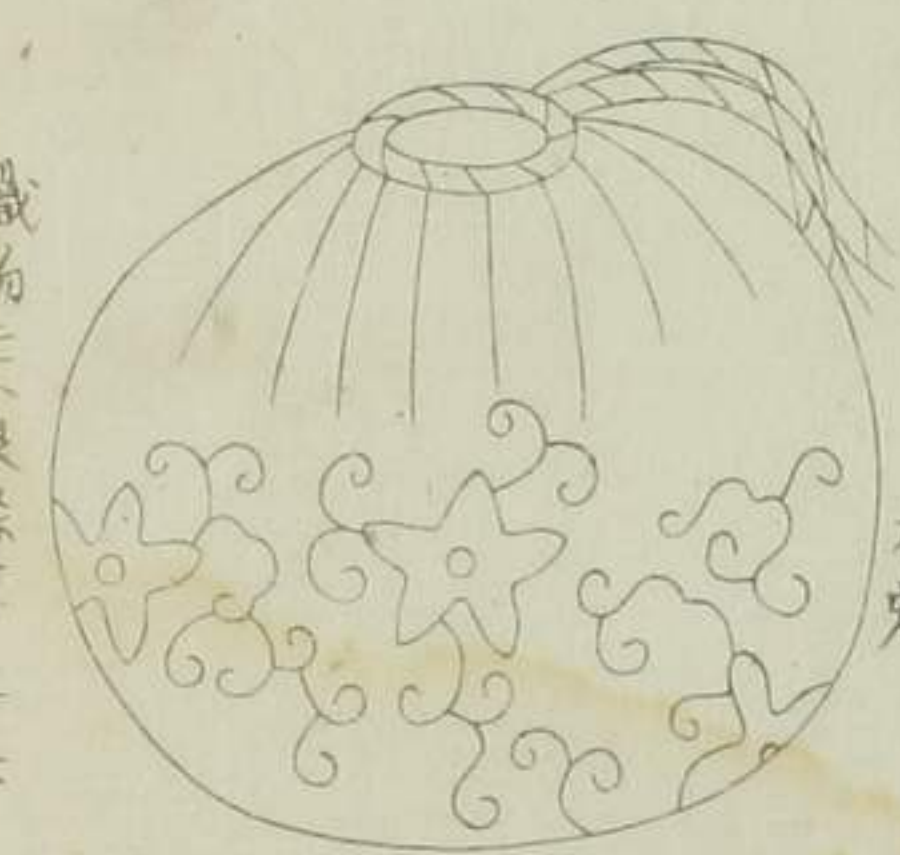


昔蒲カハ

ヒラキタル形



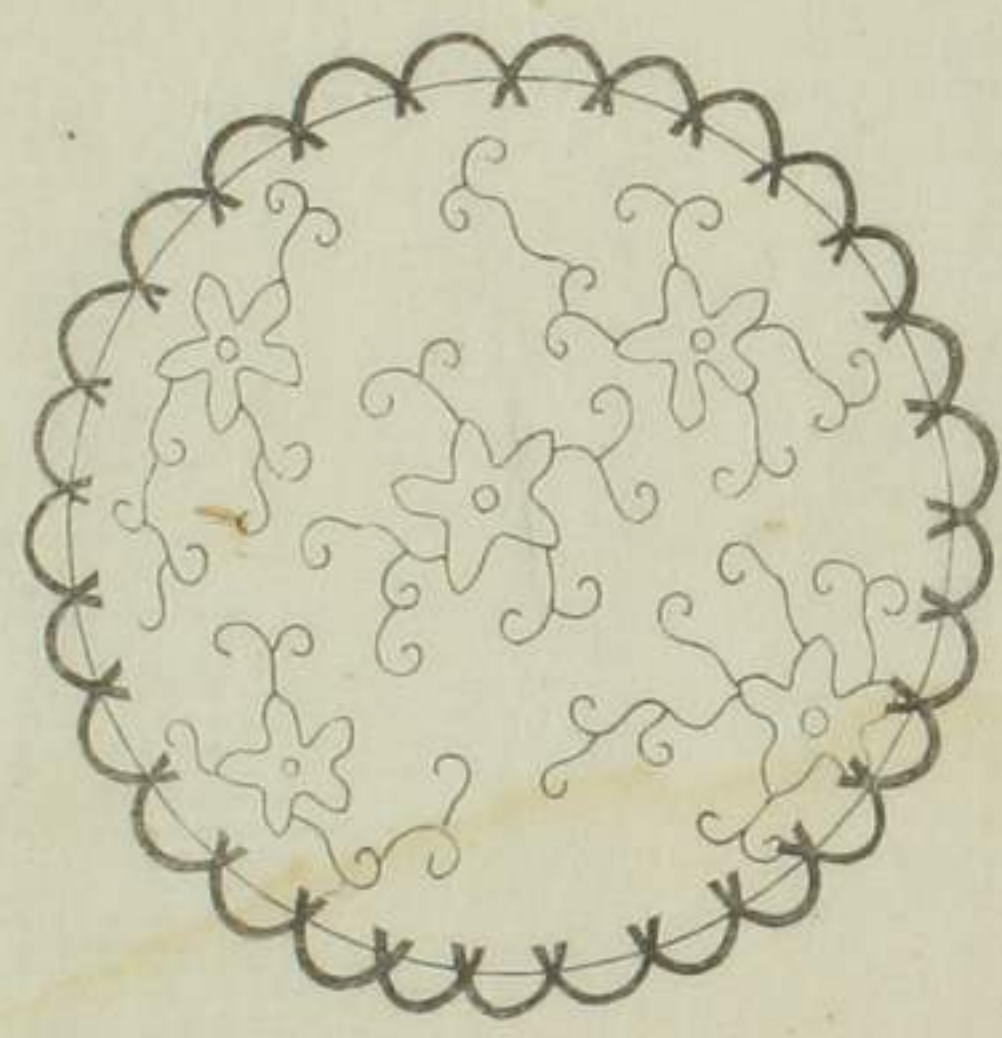
伊勢家軍用記
燧袋之図



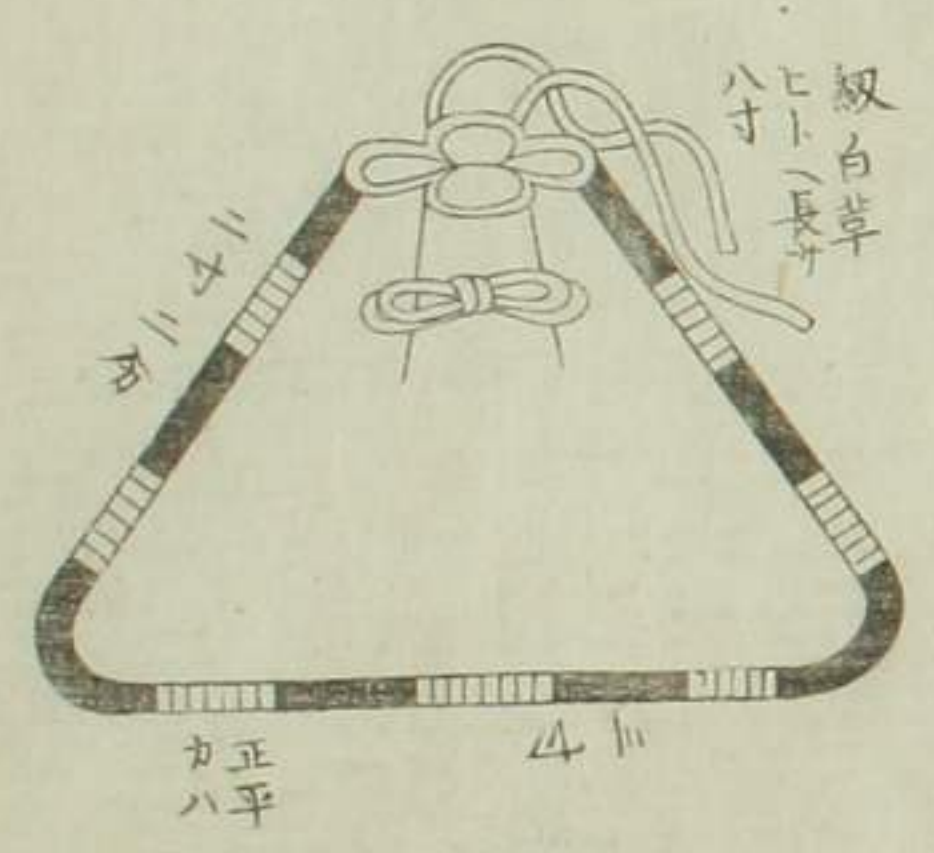
色不定寸法
不定

織物三不限染草ニテモ

ヒラキタル図



真野是翁所傳古製
燧袋之図

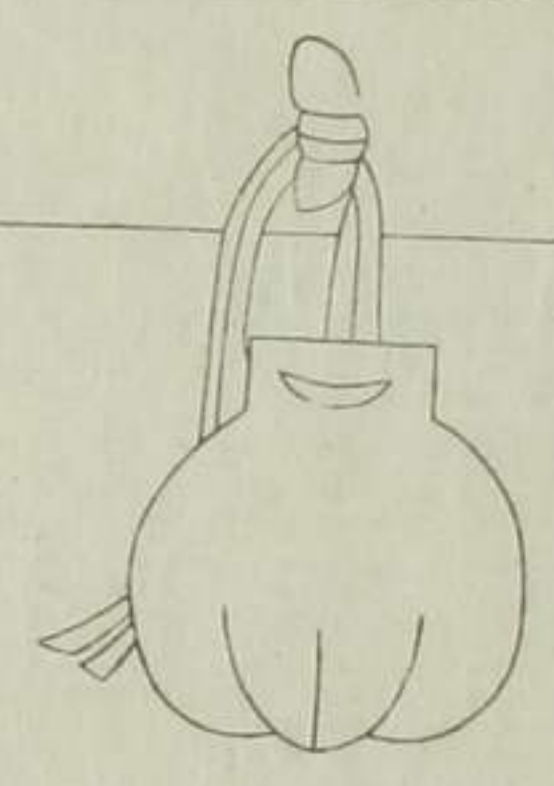


級白草
ヒト長サ
八寸

正平
カハ
4 11

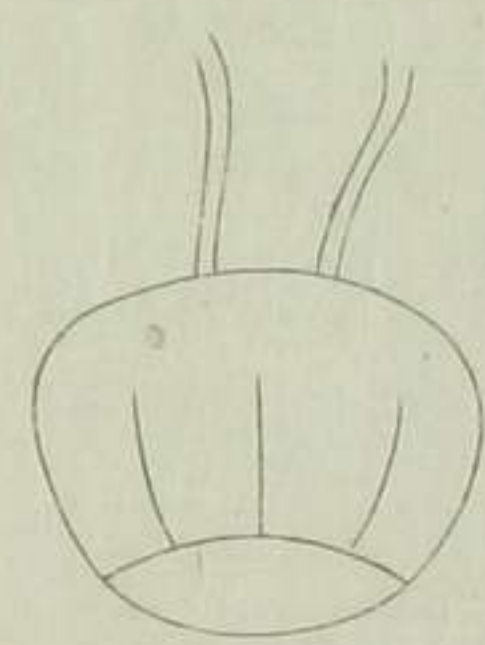
四方タチハナニ左右ト底合セヌ
ニレテ其上フセ組ラスルナリ

浮世又乎所画燧袋之図



打カノクリカタニ
付タリ

土佐光信所画同図



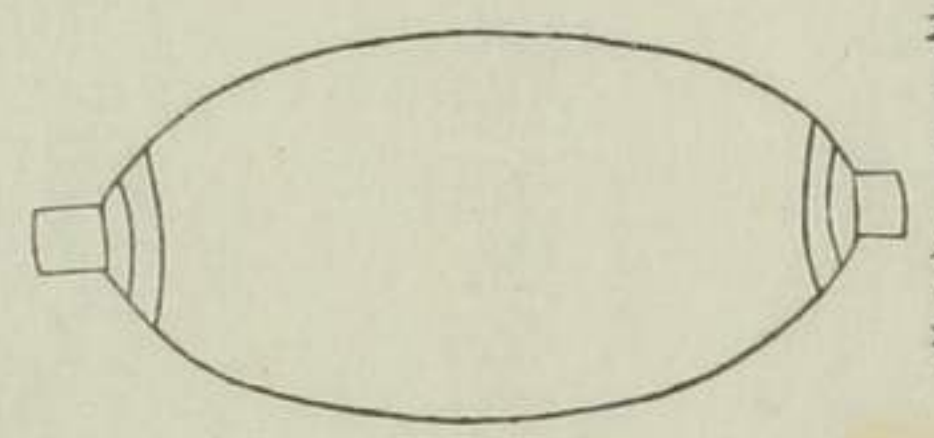
是エ打カ
ニ付タリ

因ニ云浮世又乎ト云ハ岩佐氏
ナリ此人當世ノ風俗ヲ画シエハ
人呼テ浮世又乎ト云是大津繪
ノ先祖也是亦土佐家ナリ今モ
當世ヲ画タルラ浮世繪ト云又平
ヨリ始ル也

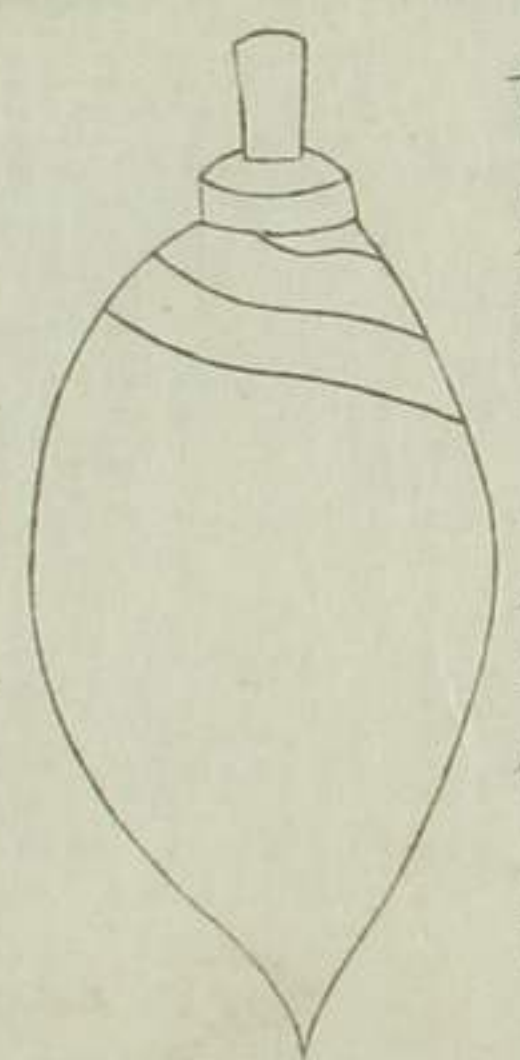
古画巻物中燧袋之図 三枚

コレラノ図ハ證トスルニタラサレトモ
今圖ヲアツムノツイテアレハコニノスルノミ

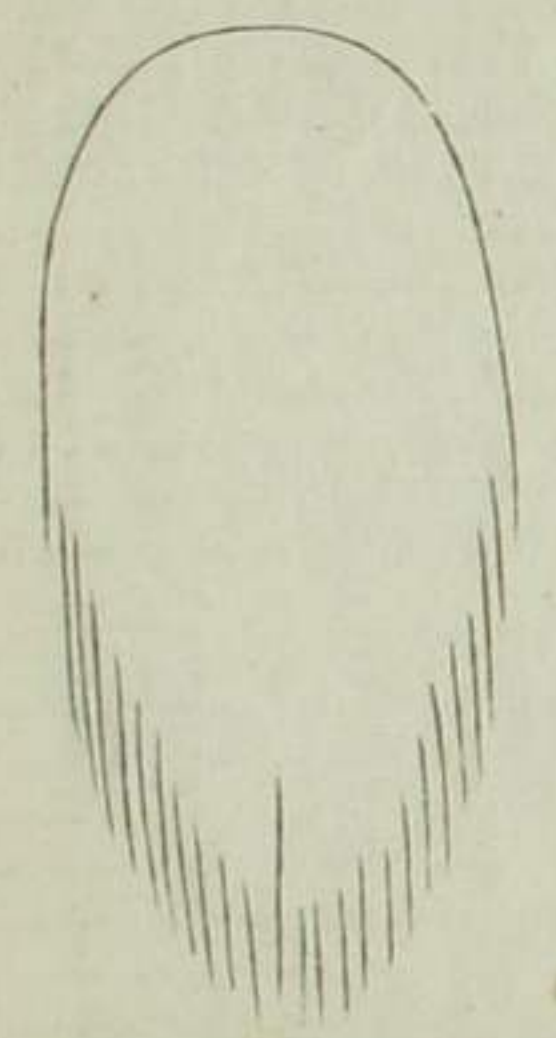
是ハ本ニテ作りタルニテ左右ニ
ロヲ付振ニシタル也



是モホラカイノ形ニ致ヒテ作りシ
ナリロハ子ジニシテ本ニテ作りニナリ



是モ毛皮ニテ作りシ物ナリ



一 燧カマノコト 古代ハ其形
 三角ナルヤ 火ハ南チニテカタナ
 三カチリ石ハ主中ヨリ
 出ルニ火打石ハ四角ニ造ルト
 云リ理屈ナリ 是ハ今
 モ三角ニ作ルヨシ三方ニ受金
 アルナリ

一 京商家燧 屋鉄石軒ト
 トイル翁アリ其家ニ古キ
 製表ノ火打カマアリニ其表ニ左
 ノ文字ヲ彫リ付タリ古代ノ
 燧カマ三角ナル事ハウタガ
 イナニ鉄石軒ガ事ハ強證
 トスヘカラスサレト其形
 メウラレケレハ其図ヲ左ニ
 ノスルナリ

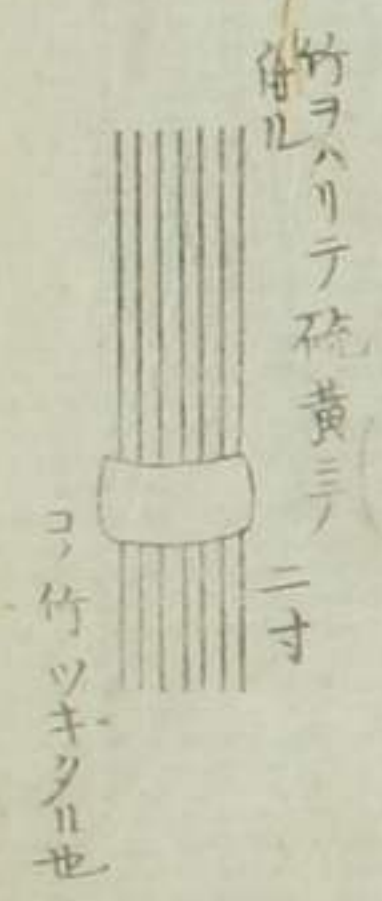
燧 鎌之図

級真紅



一 付竹ト云ハ今云ホクナ
 ノ用也火只竹ノ粉ノ白キ自
 然成ラ昔用ヒト云亦昔
 ハ付木ヲ硫黄ト云今モ京
 師ナドニテハシカ云ナリ

一 付竹之圖



保元物語古画燧袋
佩夕儿图



後三年合戦繪卷物之内
燧袋附夕儿图

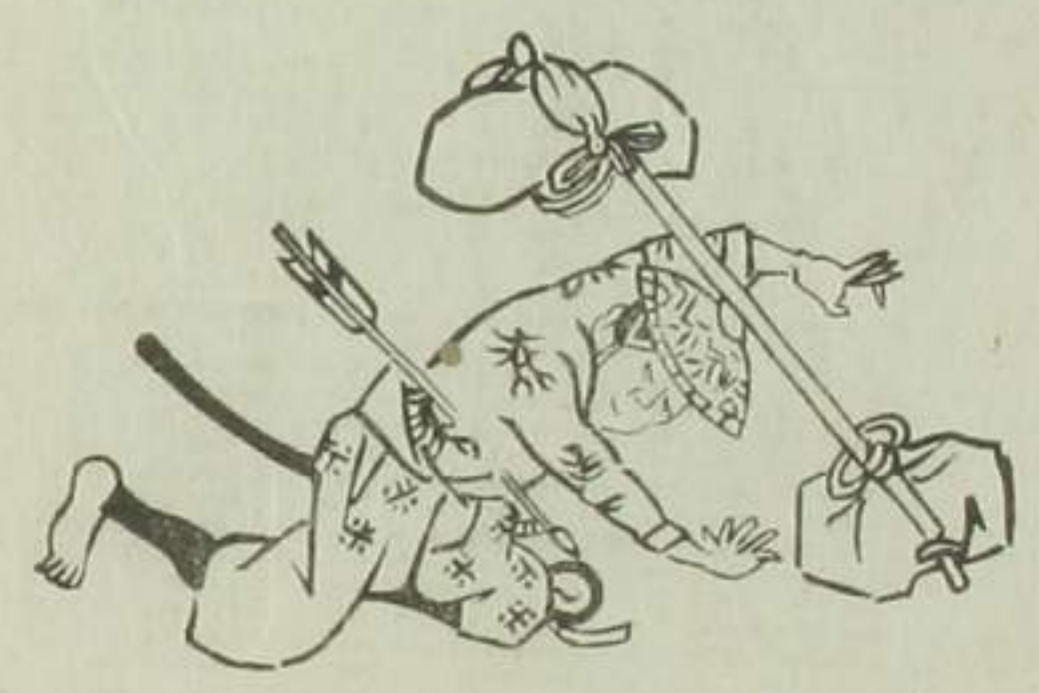
画飛彈守惟久



同



同



職人盡歌合之内燧翁
附夕ル図
画土佐光信

七番



同

十三番



同

二十三番

一廻く
一七人



藤澤道場遊行上人縁起
繪巻物之内燈袋附夕日図

画隆光



同画之内



同



春日權現驗記繪卷物之内
燧袋附夕ル図

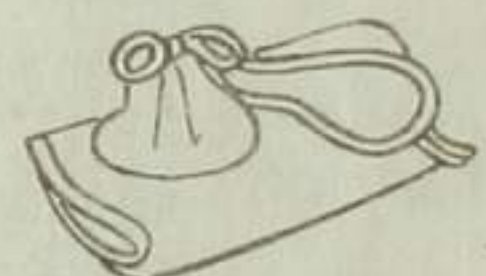
繪所右近大夫將盛高階兼



同



曾我物語繪之内
燧袋之図



大念佛寺縁起古画
燧袋之図



同



十界図巻物之内
燧袋附タル図

画巨勢金岡



同



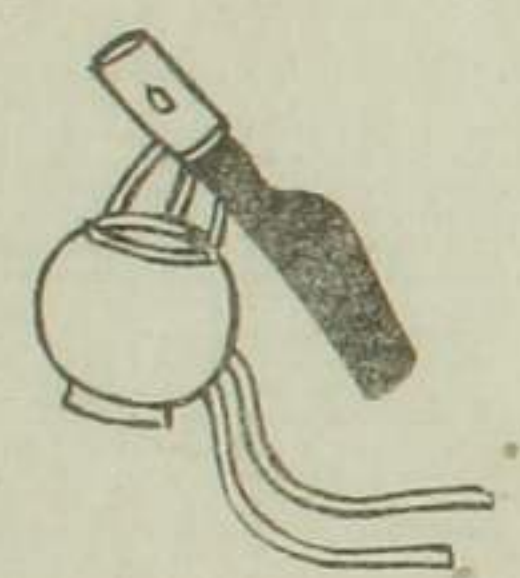
壽命寺縁起古画
燧袋附夕ル図



法然上人行狀画
燧袋附夕ル図

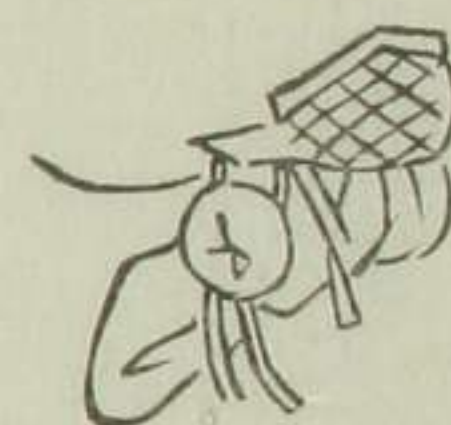


東大寺所藏古画
燧袋之図

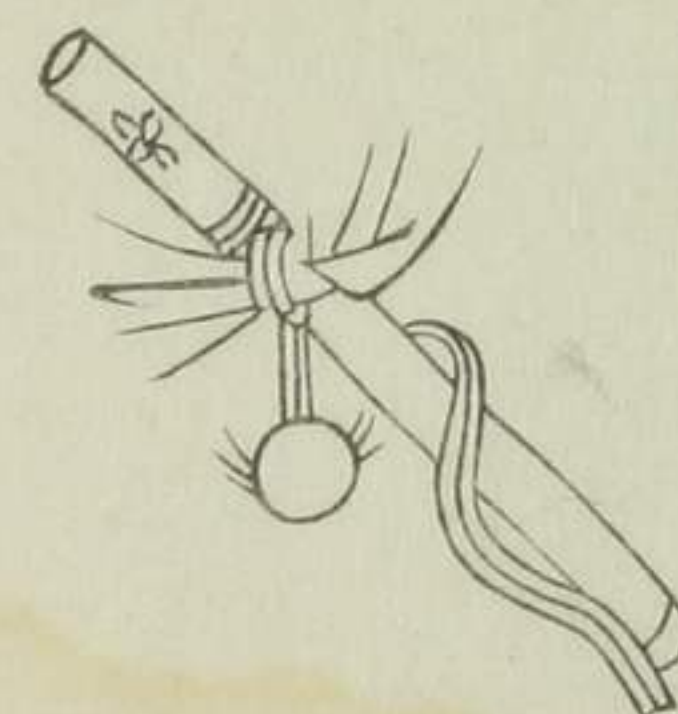


画師草紙燧袋之図

画及詞信實朝臣



或家所藏古画
燧袋之図



東都芝柴井町
板元 蝶屋鉄次郎

